

市原市文化財センター年報

平成13・14年度

財団法人 市原市文化財センター

序

平成13年度は、公共・民間を合わせて23事業を、平成14年度は同じく14事業を実施しました。平成13年度の事業内容は、確認調査17、本調査11、整理5、整理・報告書刊行4、平成14年度の事業内容は確認調査4、本調査6、整理5、整理・報告書刊行3事業となります。

この2か年にわたる発掘調査で、縄文時代から中世に至る多くの遺構や遺物を検出し、市内の歴史を紐解く上で貴重な成果を上げることができました。

まず、平成13年度調査の市道13号線路線内の南岩崎遺跡では、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡66軒が重なり合った状態で検出されました。遺構の密集度からみて、養老川中流域左岸の当該期の拠点集落のひとつである可能性も考えられる遺跡です。次ぎ、これまで海上郡衙推定地として数次にわたって調査してまいりました西野遺跡では、平成14年度は、市道112号線路線部分を含むB地点において、東西方向に整然と並ぶ奈良・平安時代の掘立柱建物跡群が検出され、調査区が海上郡家を構成する官衙ブロックの一角である可能性が高くなりました。また出土遺物としては、13年度の市原条里制遺跡で出土した平安時代の人面墨書人形木製品や、14年度の菊間遺跡群・東関山古墳において弥生時代の土坑墓から出土した銅釧などが特筆されます。

なお、当センターも平成14年度に設立20周年を迎え、記念事業として特別展「発掘 いちはら歴史浪漫」を開催致しました。15年3月21日から30日までの10日間に、延べ970名が見学に訪れました。これまで20年間の調査成果を集約した展示は、市原ならではの一級資料にあふれ、なかでも200点近い各時代の土器類を一堂に集めたコーナーの迫力は、見学者に少なからざる感銘を与えたようであり、こうした活用事業の意義にあらためて思いをいたしております。今後とも、遺跡発表会などさまざまな機会を通じて、市内の埋蔵文化財に関する情報を公開発信し、市民の共有財産として還元してまいりたいと考えております。

平成13・14両年度も、以上のように受託事業にとどまらず、研究普及事業においても意義深い取り組みがなされましたが、この間の平成13年10月15日、調査課職員小出紳夫さんの急逝という悲しい出来事がありました。小出さんは20年間にわたって、市原市教育委員会および当センターにおいて文化財の保存と活用に多大な足跡を残され、逝去の直前には坊作遺跡の整理報告書作成に取り組み、印刷を待つばかりの状態でした。当センターにとってもかけがえのない存在であり、志なかばにして倒れた本人の心情を察すると痛惜に耐えません。小出さんの文化財保護に注いだ情熱と志を無にすることのないよう、努力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、日頃よりご指導、ご協力を賜っております千葉県教育庁、市原市教育委員会、ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

財団法人 市原市文化財センター
理事長 藤本康男

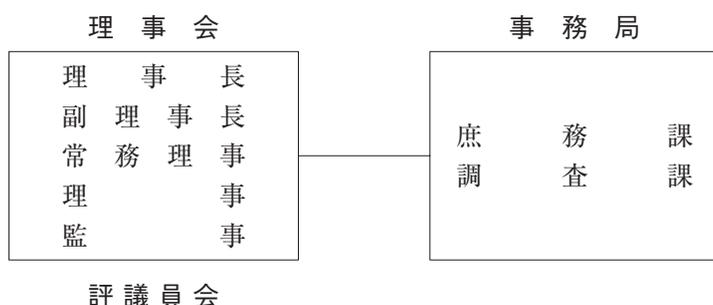
目 次

序	
I 機構	1
II 事業概要	2
III 調査概要	11
平成13年度	
1. 八幡御墓堂遺跡	13
2. 片又木遺跡	13
3. 小鳥向遺跡	13
4. 姉崎妙経寺遺跡（第7次）	14
5. 郡本遺跡群	15
6. 姉崎山新遺跡（第3地点）	16
7. 能満城跡遺跡	18
8. 南岩崎遺跡1次・2次	20
9. 西野遺跡群D地点	23
10. 市原条里制遺跡	24
11. 西野遺跡群B地点	26
12. 西野遺跡群C地点	27
13. 奈良大仏台遺跡	28
14. 南岩崎遺跡	28
15. 八幡陣屋跡	28
16. 柏原遺跡群	28
17. 古甲遺跡（第6次）	30
18. 西野遺跡群B地点	31
19. 西野遺跡群C地点	32
20. 畑木小谷遺跡	33
21. 椎津新林遺跡	33
22. 細山遺跡	34
平成14年度	
23. 能満城跡遺跡	35
24. 南岩崎遺跡（3次調査）	37
25. 西野遺跡群B地点	39
26. 八幡御墓堂遺跡	40
27. 西野遺跡群D地点	41
28. 西野遺跡群D地点	42
29. 稻荷台遺跡	43
30. 姉崎山新遺跡（第3地点）	44
31. 菊間遺跡群（袖ヶ台地区）	46
32. 菊間遺跡群・東関山古墳	48
IV 図書受領先一覧	50

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事をもって構成され、平成13年度から別に評議員会を設置した。平成13年度・14年度の組織および役員氏名は以下のとおりである。

1. 組 織



2. 平成13年度役員名簿

役 員

職 名	現 職 名	氏 名
理 事 長	生涯学習部参事	磯田 正嗣
副理事長	生涯学習部長	小茶 文夫
常務理事	専任	宍倉 和雄
理 事	國學院大學教授	加藤 晋平
理 事	和洋女子大学名誉教授	寺村 光晴
理 事	郷土史家	木村 千春
理 事		竹内 豊
理 事	企画部長	佐久間洋一
理 事	総務部長	小倉 敏男
理 事	都市計画部長	藤本 康男
監 事	出納室長	永嶋 高明
監 事	教育総務部総務課長	小出 完爾

評 議 員

職 名	現 職 名	氏 名
評 議 員	市原市文化財研究会会長	小川 八紀
評 議 員	江戸川女子短期大学教授	鈴木 仲秋
評 議 員	市原中央高等学校副校長	常澄 良平
評 議 員	市津公民館館長	山口 唯一
評 議 員	教育総務部長	藤田 国昭
評 議 員	株式会社岡本薬局代表取締役	岡本 良一
評 議 員	丸山緑化土木産業株式会社社長	丸山 定男
評 議 員	東海大学付属望洋高等学校教諭	鮎川真由美
評 議 員	社会福祉協議会五井作業所所長	桑原東太郎
評 議 員		白鳥 操

職 員

所 属	職 名	氏 名
庶 務 課	課長事務取扱	宍倉 和雄
	副主査	大鐘 光江
	主任	高浦 貞子
	囑託	辻 葉子
	囑託	常澄 智子
	調査課	課長
調査課	課長補佐	山田 貴久
	副主幹	田中 清美
	副主幹	大村 直
	副主幹	小出 伸夫
	副主幹	浅利 幸一
	副主幹	近藤 敏

所 属	職 名	氏 名
調 査 課	副主幹	高橋 康男
	副主幹	木對 和紀
	主査	小川 浩一
	主査	櫻井 敦史
	副主査	鶴岡 英一
	副主査	北見 一弘
	副主査	牧野 光隆
	副主査	小橋 健司
	主任	阿部 茂之
	囑託	半田 堅三
	囑託 H13.7.1 ~	田中 大介
	囑託	小宮 真弓

3. 平成14年度役員

役員

職名	現職名	氏名
理事長	副教育長	鶴澤 綱夫
副理事長	生涯学習部長	小茶 文夫
常務理事	専任	宍倉 和雄
理事	國學院大學非常勤講師	加藤 晋平
理事	和洋女子大学名誉教授	寺村 光晴
理事		竹内 豊
理事	総務部長	小倉 敏男
理事	財政部長	藤田 国昭
理事	土木部長	鳥海 清宏
理事	都市整備部長	桐石 定幸
監事	出納室長	伊藤 正男
監事	教育総務部総務課長 ~ H14.5.9	小出 完爾
監事	教育総務部総務課長 H14.5.10~	清水 英夫

評議員

職名	現職名	氏名
評議員	市原市文化財研究会会長	小川 八紀
評議員	江戸川女子短期大学教授	鈴木 仲秋
評議員	市原中央高等学校副校長	常澄 良平
評議員		山口 唯一
評議員	株式会社岡本薬局代表取締役	岡本 良一
評議員	丸山緑化土木産業株式会社社長	丸山 定男
評議員	東海大学付属望洋高等学校教諭	鮎川真由美
評議員	社会福祉協議会五井作業所所長	桑原東太郎

職員

所属	職名	氏名
庶務課	課長事務取扱	宍倉 和雄
	副主査	大鐘 光江
	主任	高浦 貞子
	嘱託	辻 葉子
	嘱託	常澄 智子
調査課	課長	伊藤 智樹
	課長補佐	山田 貴久
	主幹	安井 健一
	副主幹	田中 清美
	副主幹	大村 直
	副主幹	浅利 幸一
	副主幹	近藤 敏

所属	職名	氏名
調査課	副主幹	高橋 康男
	副主幹	木對 和紀
	主査	小川 浩一
	主査	櫻井 敦史
	副主査	鶴岡 英一
	副主査	北見 一弘
	副主査	牧野 光隆
	副主査	小橋 健司
	主任	阿部 茂之
	嘱託	半田 堅三
	嘱託	小宮 真弓

II 事業概要

1. 平成13年度

(1) 理事会

第1回 平成13年5月24日

議案第1号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告の承認について

議案第2号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

議案第3号 平成13・14事業年度財団法人市原市文化財センター評議員の選出について

第2回 平成14年3月27日

議案第1号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第2号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算(第1号)について

議案第3号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第4号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

(2) 評議員会

第1回 平成13年4月1日

議案第1号 理事の選任について

第2回 平成13年5月25日

議案第1号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告の承認について

議案第2号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

第3回 平成14年3月28日

議案第1号 平成14・15事業年度財団法人市原市文化財センター理事及び監事の選任について

議案第2号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第3号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第1号）について

議案第4号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第5号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

(3) 平成13年度の会計監査は、平成14年5月22日財団法人市原市文化財センターにおいて、伊藤正男監事、清水英夫監事により実施した。

(4) 受託事業

番号	事業名	遺跡名	種別	事業内容（面積）	契約年月日	受託金額（円）
1	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	八幡御墓堂遺跡	公共	確認調査 (2,048㎡)	平成13年4月27日	4,159,050
	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（その2）			確認調査 (363.92㎡)	平成13年8月31日	982,800
	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（その3）			確認調査 (2,186.02㎡)	平成13年11月15日	6,306,300
2	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査委託	妙経寺遺跡	公共	本調査 (768㎡)	平成13年10月31日	7,576,800
3	(仮) 門前街区公園整備に伴う埋蔵文化財調査	郡本遺跡群	公共	確認調査 (4,259.04㎡)	平成13年5月14日	4,370,100
4	八幡椎津線（姉崎）築造舗装工事に伴う埋蔵文化財調査	山新遺跡	公共	確認調査 (8,700㎡)	平成13年12月26日	11,992,050
5	市道110号線埋蔵文化財調査委託	不入斗遺跡群	公共	確認調査 (5,000㎡)	平成13年6月8日	3,096,450
				本調査 (3,650㎡)	平成13年7月17日	28,864,500
6	市道241号線埋蔵文化財調査委託	能満城跡	公共	本調査 (850㎡)	平成13年10月29日	12,706,050
7	市道13号線埋蔵文化財調査委託	南岩崎遺跡	公共	本調査 (2,300㎡)	平成13年6月7日	27,455,400
	市道13号線埋蔵文化財調査委託（その2）			本調査 (850㎡)	平成13年12月25日	20,737,500
8	市道5005号線埋蔵文化財調査委託	西野遺跡	公共	確認調査 (900㎡)	平成13年9月20日	1,899,450
				本調査 (900㎡)	平成13年11月9日	8,102,850

番号	事業名	遺跡名	種別	事業内容(面積)	契約年月日	受託金額 (円)
9	若宮都市下水道3号幹線整備事業	市原条里制遺跡	公共	確認調査 本調査 (480㎡ 80㎡)	平成13年6月29日	3,638,250
10	海上地区遺跡発掘調査	西野遺跡群	公共	本調査 (320㎡)	平成13年9月5日	3,297,000
				確認調査 (3,160㎡)	平成14年1月10日	1,203,000
11	市内遺跡発掘調査事業	奈良大仏台遺跡	公共	確認調査 (825.13㎡)	平成13年4月6日	1,047,550
		南岩崎遺跡		確認調査 (520㎡)	平成13年4月12日	1,157,350
		八幡陣屋跡		確認調査 (209㎡)	平成13年5月7日	841,000
		柏原遺跡群		確認調査 (431.82㎡)	平成13年7月19日	823,250
		椎津新林遺跡		確認調査 (4,161㎡)	平成14年3月8日	2,377,864
12	上総国府推定地確認調査	郡本遺跡群	公共	確認調査 (200㎡)	平成13年10月19日	5,000,000
13	都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査委託(整理報告)	釜神遺跡	公共	整理報告 (18,000㎡)	平成13年4月27日	8,136,450
14	(仮称)市原市総合防災センター用地埋蔵文化財調査整理委託	山田橋大山台遺跡	公共	整理 (28,650㎡)	平成13年4月2日	11,488,050
15	詳細遺跡分布地図基礎データ作成事業		公共	整理	平成13年4月27日	1,640,000
16	国分寺台地区文化財整理事業	西広貝塚ほか	公共	整理報告 (65,950㎡)	平成13年4月2日	93,114,000
17	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業	坊作遺跡	公共	整理 (24,660㎡)	平成13年4月2日	3,272,950
		台遺跡B地点上総国分僧寺跡		整理 (71,350㎡)	平成13年12月11日	8,379,500
18	海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査(農林分)	西野遺跡群	公共	本調査 (1,830㎡)	平成13年6月18日	18,683,000
				確認調査 (26,400㎡)	平成13年12月12日	6,817,000
19	宅地開発(加茂遺跡D1・2・3地点)に伴う埋蔵文化財調査	加茂遺跡D1・2・3地点	民間	整理 (7,220.96㎡)	平成12年3月1日	7,004,550
20	ツーカーセラ-携帯電話鉄塔建設に伴う埋蔵文化財調査	畑木小谷・畑木向4号墳	民間	本調査・整理報告 (201㎡)	平成13年4月26日	4,586,400
21	介護老人福祉施設あじさい苑建設に伴う埋蔵文化財調査	小鳥向遺跡	民間	本調査・整理報告 (740㎡)	平成13年4月5日	14,301,000
22	残土埋立用搬入路建設に伴う埋蔵文化財調査(確認)	細山遺跡	民間	確認調査 (760㎡)	平成14年3月19日	844,200
23	八幡椎津線(姉崎)築造舗装工事に伴う埋蔵文化財調査委託	山新遺跡	公共	本調査 (1,950㎡)	平成14年3月29日	0
	合計					335,901,664

継続事業

番号	事業名	遺跡名 (面積)	種別	総額 (円)	年度	金額 (円)
19	宅地開発(加茂遺跡D1・2・3地点)に伴う埋蔵文化財調査	加茂遺跡D1・2・3地点 (7,220.96㎡)	民間	56,079,450	平成12年度	44,007,600
					平成13年度	7,004,550
					平成14年度	5,067,300
23	八幡椎津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	山新遺跡 (1,950㎡)	公共	20,941,200	平成13年度	0
					平成14年度	20,941,200

(5) 研究事業

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

ア. 総会 平成13年6月7・8日(徳島県)

イ. 研修会 平成13年10月4・5日(岩手県)

ウ. 関東ブロック法人連絡協議会

平成13年6月14・15日(埼玉県)

平成13年10月26日(栃木県)

エ. コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会

平成13年6月22日(東京都)

平成13年11月2日(東京都)

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

ア. 総会 平成13年7月6日(千葉市中央区)

イ. 役員会 平成14年3月19日(財団法人千葉県文化財センター)

ウ. 部会 事務部会 2回、技術部会 5回

エ. 研修会 平成13年10月12日(千葉県立中央博物館)

③ 補助員研修会 平成14年1月14日(千葉県立安房博物館、館山市立博物館)

(6) 普及事業

① 調査報告書の刊行

『坊作遺跡』

『市原市釜神遺跡』

『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』

② 千葉県文化財法人連絡協議会遺跡調査研究発表会

平成14年1月20日 千葉市文化センター

③ 遺跡発表会

平成14年3月10日 サンプラザ市原

調査遺跡の成果報告

① 南岩崎遺跡

- ② 西野遺跡群
- ③ 能満城跡
- ④ 新堀小鳥向遺跡
- ⑤ 片又木遺跡

特別講演 「古墳と鏡」

早稲田大学講師 車崎正彦

- ④ 冊子『発掘ってなあに』第2号の刊行
- ⑤ 『市原市文化財センター年報（平成11年度）』の刊行
- ⑥ 報告書等の頒布

(7) 平成13年度決算報告

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
基本財産運用収入	2,000	2,493	△ 493	
事業収入	357,332,000	357,162,514	169,486	
雑収入	32,000	32,270	△ 270	
当期収入合計	357,366,000	357,197,277	168,723	
前期繰越収支差額	59,174,000	59,174,402	△ 402	
収入合計	416,540,000	416,371,679	168,321	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
受託事業費	299,975,000	297,241,822	2,733,178	
研究普及事業費	9,054,000	8,983,425	70,575	
一般管理費	14,161,000	13,588,361	572,639	
消費税支出	9,113,000	7,984,700	1,128,300	
固定資産取得支出	43,512,000	43,511,184	816	
特定預金支出	1,285,000	1,285,000	0	
予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計	377,600,000	372,594,492	5,005,508	
当期収支差額	△ 20,234,000	△ 15,397,215	△ 4,836,785	
次期繰越収支差額	38,940,000	43,777,187	△ 4,837,187	

平成14年度

(1) 理事会

第1回 平成14年5月28日

議案第1号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第2号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告の承認について

議案第3号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

第2回 平成14年7月4日

議案第1号 昭和63事業年度から平成12事業年度における財務諸表の訂正について

第3回 平成14年8月29日

議案第1号 財政援助団体等監査結果に係る措置について

第4回 平成14年12月18日

議案第1号 財団法人市原市文化財センター職員給与規程の一部を改正する規程の制定について

第5回 平成15年3月28日

議案第1号 平成15・16事業年度財団法人市原市文化財センター評議員の選出について

議案第2号 財団法人市原市文化財センター処務規程の全部を改正する規程の制定について

議案第3号 財団法人市原市文化財センター情報公開規程の全部を改正する規程の制定について

議案第4号 財団法人市原市文化財センター役員等の報酬、旅費及び費用弁償支給規則の全部を改正する規則の制定について

議案第5号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第6号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第1号）について

議案第7号 平成15事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第8号 平成15事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

(2) 評議員会

第1回 平成14年5月9日

議案第1号 平成14・15事業年度財団法人市原市文化財センター監事の選任について

第2回 平成14年5月29日

議案第1号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第2号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告の承認について

議案第3号 平成13事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

第3回 平成14年7月4日

議案第1号 昭和63事業年度から平成12事業年度における財務諸表の訂正について

第4回 平成14年8月29日

議案第1号 財政援助団体等監査結果に係る措置について

第5回 平成15年3月28日

議案第1号 財団法人市原市文化財センター役員を選任について

議案第2号 財団法人市原市文化財センター役員等の報酬、旅費及び費用弁償支給規則の全部を

改正する規則の制定について

議案第3号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第4号 平成14事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第1号）について

議案第5号 平成15事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第6号 平成15事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

(3) 平成14年度の会計監査は、平成15年5月14日財団法人市原市文化財センターにおいて、伊藤正男監事、清水英夫監事により実施した。

(4) 受託事業

番号	事業名	遺跡名	種別	事業内容（面積）	契約年月日	受託金額（円）
1	市道241号線（能満・山木）埋蔵文化財調査委託	能満城跡	公共	確認調査（4,120㎡）	平成15年1月21日	6,945,750
2	市道13号線（南国吉・西国吉）埋蔵文化財調査委託	南岩崎遺跡	公共	本調査（1,130㎡）	平成14年9月6日	32,748,450
3	市道112号線（引田・西野）埋蔵文化財調査委託	西野遺跡	公共	本調査（3,800㎡）	平成14年4月10日	24,302,250
4	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（その1）	八幡御墓堂遺跡	公共	確認調査（355㎡）	平成14年6月5日	1,611,750
				確認調査（663.75㎡）	平成14年8月7日	2,318,400
				整理（5,092.89㎡）	平成14年12月10日	2,483,250
5	海上地区遺跡発掘調査事業	西野遺跡群	公共	確認調査（5,320㎡）	平成14年9月25日	4,500,000
6	市内遺跡発掘調査事業	山田橋稲荷台遺跡	公共	本調査・整理・報告（662㎡）	平成14年7月19日	8,517,871
		椎津新林遺跡		整理・報告（4,161㎡）		
7	市道110号線（今津朝山・不入斗）埋蔵文化財調査委託	不入斗遺跡群	公共	整理（7,420㎡）	平成14年7月5日	8,963,850
8	国分寺台地区文化財整理事業	西広貝塚ほか	公共	整理・報告（54,880㎡）	平成14年4月1日	100,000,000
9	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業	台遺跡	公共	整理（12,600㎡）	平成14年4月1日	8,028,909
		上総国分僧寺跡		整理（58,750㎡）	平成14年8月30日	7,179,797
10	ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務	西野遺跡群	公共	確認調査（53,360㎡）	平成14年7月31日	25,500,000
11	宅地開発（加茂遺跡D1・2・3地点）に伴う埋蔵文化財調査	加茂遺跡D1・2・3地点	民間	整理・報告（7,220.96㎡）	平成12年3月1日	3,818,850
12	八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	山新遺跡	公共	本調査（1,950㎡）	平成14年3月29日	20,941,200
13	移動通信用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財（菊間遺跡群）調査委託	菊間遺跡群	民間	本調査（240㎡）	平成15年2月5日	4,491,900
14	個人住宅建設に伴う埋蔵文化財（菊間遺跡群・東関山古墳）調査委託	菊間遺跡群・東関山古墳	民間	本調査（70㎡）	平成15年2月7日	1,052,100
合 計						263,404,327

継続事業

番号	事業名	遺跡名 (面積)	種別	総額 (円)	年度	金額 (円)
11	宅地開発(加茂遺跡D1・2・3地点)に伴う埋蔵文化財調査	加茂遺跡D1・2・3地点 (7,220.96㎡)	民間	54,831,000	平成12年度	44,007,600
					平成13年度	7,004,550
					平成14年度	3,818,850
12	八幡椎津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	山新遺跡 (1,950㎡)	公共	20,941,200	平成13年度	0
					平成14年度	20,941,200
13	移動通信用無線基地局建設に伴う埋蔵文化財(菊間遺跡群)調査委託	菊間遺跡群 (240㎡)	民間	7,534,800	平成14年度	4,491,900

(5) 研究事業

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

ア. 総会 平成14年6月13・14日(栃木県)

イ. 研修会 平成14年10月17・18日(石川県)

ウ. 関東ブロック法人連絡協議会

平成14年5月14日(東京都)

平成14年11月8日(横浜市)

エ. コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会

平成14年6月14日(東京都)

平成14年10月18日(東京都)

平成15年2月14日(東京都)

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

ア. 総会 平成14年7月1日(千葉市)

イ. 部会 事務部会 2回、技術部会 5回

ウ. 研修 共同研修会 平成14年10月11日(佐倉市)

③ 埋蔵文化財専門技術講習会

平成14年9月26・27日(四街道市)

平成14年10月17・18日、11月14・15日(栄町)

④ 県外研修 平成14年度 群馬県3名、愛知県1名

(6) 普及事業

① 調査報告書の刊行

『加茂遺跡D地点』

『稻荷台遺跡』

② 千葉県文化財法人連絡協議会遺跡調査研究発表会

平成15年1月19日 千葉市文化ホール

③ 設立20周年記念展

平成15年3月21日～30日 『発掘 いちはら歴史浪漫』の開催

- ④ 冊子『発掘ってなあに』第3号の刊行
- ⑤ 『市原市文化財センター年報（平成12年度）』の刊行
- ⑥ 『研究紀要Ⅳ』の刊行
- ⑦ 報告書等の頒布

(7) 平成14年度決算報告

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
基本財産運用収入	1,000	1,508	△ 508	
事業収入	246,166,000	246,236,147	△ 70,147	
雑収入	4,000	4,484	△ 484	
当期収入合計	246,171,000	246,242,139	△ 71,139	
前期繰越収支差額	43,777,000	43,777,187	△ 187	
収入合計	289,948,000	290,019,326	△ 71,326	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
受託事業費	229,603,000	227,839,649	1,763,351	
研究普及事業費	7,046,000	6,971,953	74,047	
一般管理費	11,580,000	11,229,421	350,579	
消費税支出	8,688,000	8,621,600	66,400	
固定資産取得支出	2,077,000	2,075,745	1,255	
特定預金支出	941,000	941,000	0	
予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計	260,435,000	257,679,368	2,755,632	
当期収支差額	△ 14,264,000	△ 11,437,229	△ 2,826,771	
次期繰越収支差額	29,513,000	32,339,958	△ 2,826,958	

Ⅲ 調査概要

平成13年度は、公共・民間を合わせて確認調査17、本調査11、整理5、整理・報告書刊行4の計23事業を、平成14年度は同じく確認調査4、本調査6、整理5、整理・報告書刊行3の計14事業を実施した。以下主な調査遺跡の時代毎の概要を記す。

旧石器時代では、両年度を併せて平成13年度調査の細山遺跡において、基本土層第Ⅶ層中より剥片が検出されたのみである。

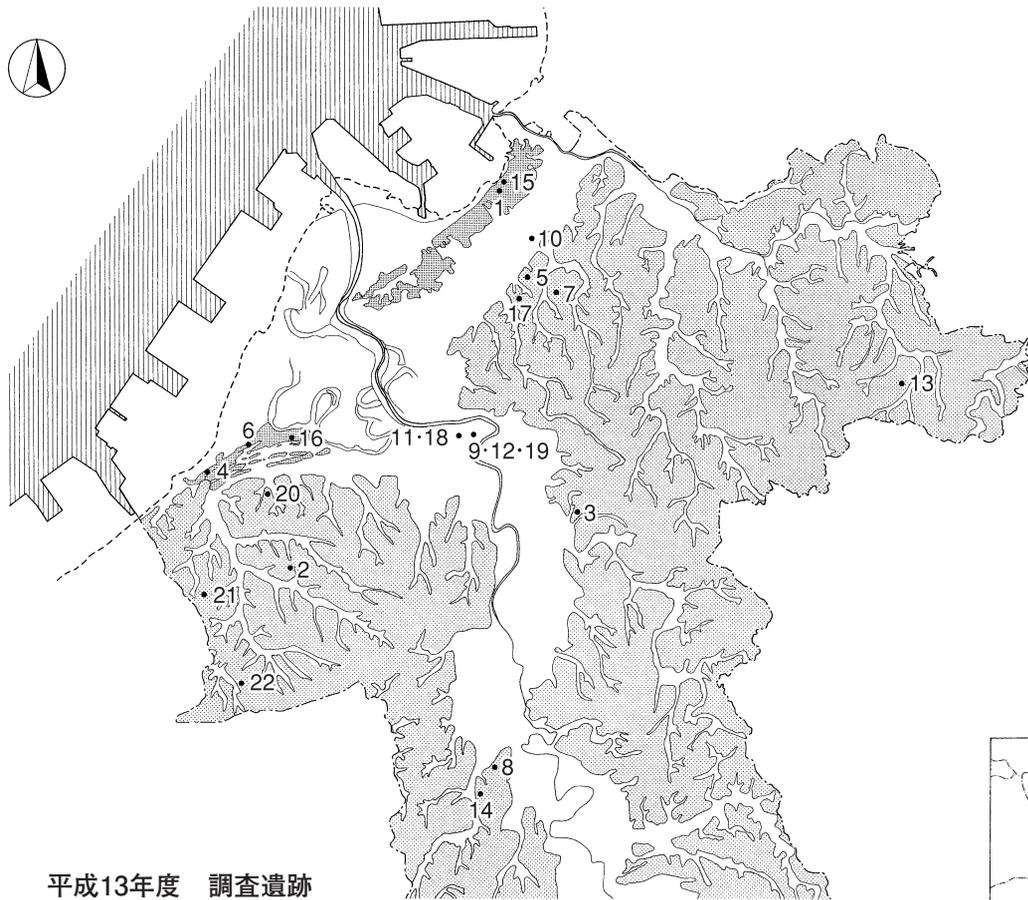
平成13年度の縄文時代では、細山遺跡において早期子母口式土器を伴う炉穴5基が、畑木小谷遺跡では早期条痕文系土器を伴う炉穴2基が、奈良大仏台遺跡では土坑1基が検出された。また中期以降では、姉崎妙経寺遺跡より中期初頭の竪穴住居跡1軒、郡本遺跡群からは晩期の土坑1基が検出されている。この他、平成14年度には南岩崎遺跡において、陥し穴6基と集石1箇所、姉崎山新遺跡からは土坑3基が検出されている。

弥生時代以降は両年度を通じて検出遺構が多くなる。平成13年度の弥生時代では、能満城跡から後期方形周溝墓1基、南岩崎遺跡より後期竪穴住居跡13軒、同じく平成14年度では能満城跡から後期竪穴住居跡1軒・方形周溝墓2基、南岩崎遺跡より後期方形周溝墓1基、菊間遺跡群からは後期竪穴住居跡5軒・土壙墓1基、地点を変えた東関山古墳前方部前面の菊間遺跡群からは、後期の土坑1基が検出されている。この内東関山古墳前方部前面の土坑からは、4連の帯状円環型銅釦が検出された。市内では御林跡遺跡の2基の方形周溝墓主体部よりそれぞれ5連10点、草刈遺跡H区の6～7連（未報告）の検出に次ぐものであり、特に注目される。

古墳時代では南岩崎遺跡の遺構数が突出している。市道13号線路線内の調査範囲のみで、両年度を通じて総数69基の古墳時代の各種遺構が、他時期の遺構と重複して検出され、同遺跡の別地点からは、前期竪穴住居跡1軒と後期円墳3基が検出されている。その分布密度から、遺跡が所在する台地をほぼ占拠する養老川中流域左岸の当該期の拠点集落のひとつである可能性が考えられる。

奈良・平安時代では、平成14年度の市道112号線路線内の西野遺跡において、東西方向に整然と並ぶ8棟の掘立柱建物群が検出された。当遺跡周辺は古くから海上郡衙推定地と目されてきたが、これまで数次にわたる調査によっても郡家跡と特定できる直接的な証拠は得られていない。しかし今回の市道112号線路線部分を含むB地点で検出されている一群の掘立柱建物は、一定のまとまりをもち、配置の企画性も高い建物群であり、郡家を構成する官衙ブロックのひとつである可能性が考えられる。市原条里制遺跡では、平安時代の溝より、木製鎌・短冊状板材・人形木製品が検出された。なかでも人形木製品には人面などが墨書されており、当該期の祭祀を考える上で注目される資料である。

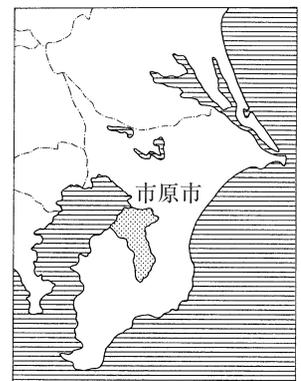
中世では、平成13年度の八幡御墓堂遺跡・不入斗遺跡群・能満城跡・南岩崎遺跡・西野遺跡・小鳥向遺跡、同14年度の八幡御墓堂遺跡・能満城跡・南岩崎遺跡・西野遺跡などから多数の遺構が検出された。このうち新堀所在の小鳥向遺跡からは、「建武5年（1338）年6月上総国新堀郷給主得分注文かづきのくににいほりごうきゅうしゅうとくふんちゅうもん」にみえる鋳物師の活動を裏付ける溶解炉壁など多数の鋳造関連遺物が検出された。今回の調査区内では鋳造施設本体は検出されなかったが、周辺に鋳物師の工房跡が存在したことは確実であり、文献史料と考古資料の相互検証上、注目される事例である。



平成13年度 調査遺跡

平成13年度

- 1 八幡御墓堂遺跡
- 2 片又木遺跡
- 3 小鳥向遺跡
- 4 姉崎妙経寺遺跡
(第7次)
- 5 郡本遺跡郡
- 6 姉崎山新遺跡
(第3地点)
- 7 能満城跡遺跡
- 8 南岩崎遺跡1次・2次
- 9 西野遺跡群D地点
- 10 市原条里制遺跡
- 11 西野遺跡群B地点
- 12 西野遺跡群C地点
- 13 奈良大仏台遺跡
- 14 南岩崎遺跡
- 15 八幡陣屋跡
- 16 柏原遺跡群
- 17 古甲遺跡(第6次)
- 18 西野遺跡群B地点
- 19 西野遺跡群C地点
- 20 畑木小谷遺跡
- 21 椎津新林遺跡
- 22 細山遺跡



平成14年度 調査遺跡

平成14年度

- 23 能満城跡遺跡
- 24 南岩崎遺跡
(3次調査)
- 25 西野遺跡群B地点
- 26 八幡御墓堂遺跡
- 27 西野遺跡群D地点
- 28 稻荷台遺跡
- 29 西野遺跡群D地点
- 30 姉崎山新遺跡
(第3地点)
- 31 菊間遺跡群
(袖ヶ台地区)
- 32 菊間遺跡群
・東関山古墳

1. ^{やわたみはかどう}八幡御墓堂遺跡

事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）
所在地 市原市八幡803-1他（その1）、817-1・817-7・817-14（その2）、810-4ほか（その3）
調査期間 平成13年5月1日～平成13年5月30日（その1）
平成13年10月1日～平成13年10月4日（その2）
平成13年11月26日～平成14年1月11日（その3）
調査面積 204㎡／2,048㎡（その1）、36㎡／363.92㎡（その2）、219㎡／2,186.02㎡（その3）
調査概要 中世の溝状遺構・道路状遺構・土坑が検出された。御墓堂墓地の隣からは中・近世の土壙墓が検出されず、墓域は平成12年度本調査区内で完結する可能性が強まった。中世陶磁器類・獣骨・土錘、縄文土器、形象埴輪などが出土している。遺構配置図は平成14年度の本遺跡調査概要（38頁）に掲載したので、参照されたい。（櫻井敦史）

2. ^{かたまたぎ}片又木遺跡

事業名 市道110号線（今津朝山・不入斗）埋蔵文化財調査委託
所在地 市原市不入斗字下大高237・238番地
調査期間 平成13年6月11日～平成13年6月29日（確認調査）
平成13年7月8日～平成13年12月27日（本調査）
調査面積 500㎡／5,000㎡（確認調査） 3,650㎡（本調査）
調査概要 前年度調査区から谷向かいの尾根筋上を調査し、弥生時代終末期の集落と、小鍛冶工房の可能性のある奈良・平安時代の建物跡、切り土整地を伴う中世前期の掘立柱建物跡などが検出された。すでに報告書が刊行されているので、詳細は下記を参照されたい。報告書のD・E区に該当する。
報告書 『市原市片又木遺跡Ⅲ』（財市原市文化財センター 2004）
（櫻井敦史）

3. ^{ことりむかい}小鳥向遺跡

事業名 介護老人福祉施設あじさい苑建設に伴う埋蔵文化財調査（本調査）
所在地 市原市新堀馬場940ほか
調査期間 平成13年4月9日～平成13年6月18日
調査面積 740㎡
調査概要 養老川中流域の河岸段丘面に室町時代から戦国前期にかけての方形竪穴遺構・井戸状遺構群が検出された。一定量の鑄造遺物が出土し、南北朝期の文献に見える「鑄物師」が実際操業していた裏付けとなった。遺跡の性格は中世後期の墓域と推測されているが、明確でない。報告書が発行されているので、詳細は下記を参照されたい。
報告書 『市原市小鳥向遺跡Ⅱ』（財市原市文化財センター 2002）
（櫻井敦史）

あねさきみょうきょうじ
4. 姉崎妙経寺遺跡 (第7次)

事業名 姉崎駅前土地区画整理事業埋蔵文化財調査委託 (本調査)

所在地 市原市姉崎455-1番地

調査期間 平成13年11月1日～12月27日

調査面積 768㎡ (本調査)

調査概要 遺跡は東京湾に面するJR姉ヶ崎駅東口前の砂堆上にあり、調査区は妙経寺の門前に位置する。既往の調査によって、縄文中期の貝層・竪穴住居跡 (第1次) や古墳群などが確認されている。

今回の調査区からは、縄文中期 (五領ヶ台式) の竪穴住居跡1棟・古墳時代の竪穴住居跡2棟・古墳後期円墳周溝5条・円筒埴輪棺1基・土坑4基・溝状遺構1条・道路状遺構1条が検出された。円墳はすべて周溝のみの検出である。埴輪棺はこのうちの17号墳周溝の東側に隣接し、底部を墳丘側に向けて出土した。これは約3個体分の普通円筒埴輪で構成されており、2個体の普通円筒埴輪を挿し込んで、口縁部と透孔を別個体の破片で塞ぐという組み合わせである。骨片は出土していない。

円筒埴輪はいずれも2次調整のハケメがない3条凸帯4段構成である。ただし、挿し込まれる側の1個体は第3段上端が未調整のまま焼成されており、透孔も他と異なり第2段に穿たれている。前者は略測で、口径30cm、底径20cm、器高65cm、最下段28cm、第2段10cm、第3段12cm、第4段16cmで、後者も基本的に同一規格である。透孔は径7cmの円形で、対向する位置に2ヶ所ある。凸帯は高さ・幅とも1cmの立体的なもので、側面が強いナデでくぼんでおりM字状の断面形を持つ。

これまで、妙経寺古墳群では埴輪の伴う古墳は確認できていないが、埴輪棺の検出によって、近傍にそうした古墳の存在する可能性が高まった。また、口縁部未調整の個体があることは、偶然にすぎないかもしれないが、生産者との距離を示唆しており興味深い。今後の調査に期待したい。(小橋健司)



埴輪棺検出状況

5. 郡本遺跡群

事業名 (仮) 門前街区公園整備に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市門前1丁目149番1、149番2、158番2

調査期間 平成13年6月11日～平成13年6月27日(確認調査)

平成13年8月27日～平成13年9月7日(本調査)

調査面積 4,259.04㎡のうち426㎡(確認調査)、および64㎡(本調査)

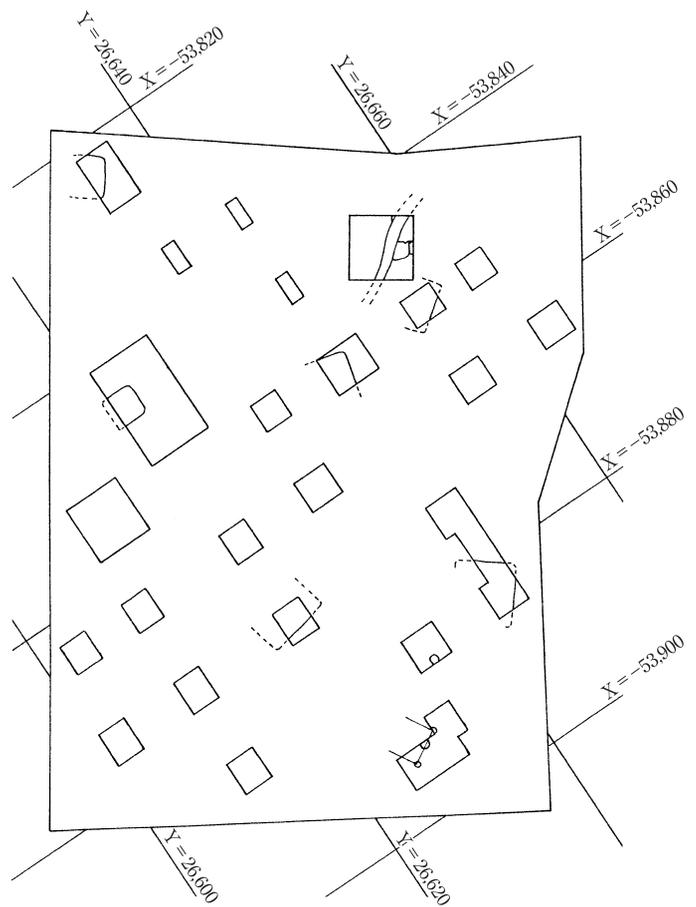
調査概要 遺跡は、海岸平野を西に望む標高20m前後の「市原台地」ほぼ中央にある埋没谷付近に位置する。付近は、上総国府推定地や市原郡衙推定地として注目されており、多くの調査成果が蓄積されている。また、万葉集にも歌われている「阿須波神社」が北側に位置しており、国道297号線にほぼ沿って縦貫していると推定される古代道と密接に関係していると、考えられる。

今回の調査では、縄文時代から平安時代の遺構が展開していることが、確認された。遺構としては、縄文時代晩期の土坑1基、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡5軒、及び奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟などが確認された。調査区埋没谷の暗黒色堆積土中上層において、平安期の竪穴住居跡が確認されており、本埋没谷は平安期後半には、殆ど埋没したと考えられる。

本調査は、貯水槽部分に限って行われ、古墳時代前期竪穴住居跡1軒・平安時代竪穴住居跡1軒、同じく平安期の土坑及び道路状遺構を検出した。(小川浩一)



遺跡位置図 (1/5,000)



トレンチ配置図 (1/800)

6. あねさきさんしん 姉崎山新遺跡（第3地点）

事業名 八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）業務委託

所在地 市原市姉崎1451-5番地先

調査期間 平成14年1月15日～平成14年3月18日

調査面積 870㎡／8,700㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、JR内房線姉ヶ崎駅前から、内房線内陸側に沿って五井方向つづく海岸砂丘帯上にある。砂丘帯は西側から姉崎台地から流れ出る椎津川河口、東側は養老川左岸側の支流今津川まで残存している。椎津川より西は袖ヶ浦市長浦地区の台地直下が波蝕台海岸になっており、過去は海岸砂の供給源になっていたであろう。東の今津川までくると養老川デルタの影響で砂泥質になっている。また砂丘も養老川旧流路である前川などの影響で失われていると考えられる。しかし近年まで一部の砂丘状の高まりが青柳地区に残存していた⁽¹⁾。

姉崎山新遺跡は大字姉崎の山新地区に所在し、今津川で白塚柏原地区と隔てられており、南北約1km、東西約1.2kmと非常に広い。都市計画道路用地は山新遺跡を縦断しており、今津川左岸の地区を平成10年度に調査している⁽²⁾。西側部分を姉崎台地区に隣接した山新第2地点は、明神小学校校庭から当第3地点境界の排水路まで本調査を終了している⁽³⁾。

第3地点は、姉崎二子塚古墳の占地する同じ砂丘帯上にあり、標高5～6mの微高地となり、現水田面より1mほどの比高差がある。図左下の南西部分は、砂丘の後背湿地ラグーン部分となり、排水路付近は2m以上の未分解植物層の泥炭層が広く分布している。上部泥炭層内に白色のテフラが挟在しており、同定出来れば指標になるだろう。この調査区は二子塚古墳の盾形周溝外縁部の施設を想定していたが、調査区内では関連遺構は検出されず、少量の埴輪片が採集された⁽⁴⁾。砂丘上には確認調査によって古墳周溝と竪穴住居跡が検出された。古墳は現況では墳丘を確認できず⁽⁵⁾、周溝のみであるが、覆土からは古墳時代中期和泉式期土師器が出土しており、二子塚古墳より西100mの上野合遺跡と同様な状態である⁽⁶⁾。図右上端調査区は、砂丘前浜から後浜部分になっている。第3地点は砂丘の前浜部分から、砂丘を擽がけに縦断して、後背湿地に至る全長550m部分となる。図中網点部分は未買収部分であり、調査は未実施であるが両側に遺構を確認しているので遺跡範囲となるだろう。

砂丘の遺構確認面は、黄褐色砂層となっており妙経寺遺跡の調査から、縄文時代後期時期に形成されたものと考えられる⁽⁷⁾。古墳時代の遺構覆土は、ほぼ黒色で良くしまっており硬い。それに比べて地山である砂層は、全く締まりが無く、現在の海岸砂と変わらない。 (近藤 敏)

(1) 高橋康男 『青柳塚群』 市原市青柳地区区画整理組合（助市原市文化財センター 1990）

(2) 小橋健司 「姉崎山新遺跡（第1地点）」『市原市文化財センター年報10年度』（助市原市文化財センター 2001）

(3) 小橋健司 「姉崎山新遺跡（第2地点）」『市原市文化財センター年報11年度』（助市原市文化財センター 2002）

(4) 白井久美子 「上海上の奥津城」『房総考古学ライブラリー6 古墳時代2』（助千葉県文化財センター 1992）

(5) 「姉崎二子塚古墳」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』 千葉県教育委員会 1994

(6) 木對和紀 「上野合遺跡」『平成元年度市原市市内遺跡群調査報告書』 市原市教育委員会 1990

(7) 小出紳夫 「姉崎妙経寺遺跡（4次調査）」『市原市文化財センター年報10年度』（助市原市文化財センター 2001）



姉崎

姉崎山新遺跡第3地点確認調査平面図

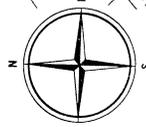
市原市基本図F-3 平成7年修正図部分

100m

S=+20.000

Y=-58.000km

X=+20.000km



◎14.4

二子塚古墳

5.8

6.1

6.3

6.1

4.9

4.6

5.5

5.4

5.9

5.7

5.8

5.8

のうまんじょうあと
7. 能満城跡遺跡

事業名 市道241号線（能満・山木）埋蔵文化財調査委託（本調査）

所在地 市原市能満637番地

調査期間 平成13年10月29日～平成14年1月23日

調査面積 850㎡（本調査）

調査概要 平成11年度から確認調査、平成12年度本調査につづく、確認調査の結果本調査対象分の残った最後の部分の本調査である⁽¹⁾。能満城全体概略図は平成12、13年度の本調査部分と、調査区近隣の堀、土塁の現況地形を測量したものを市原市基本図D6に重ねて拡大したものである。

今回の調査区は旧平面直角座標のX = - 54,285mで南北に分離した北側部分になる。調査区ほぼ中央に15、16世紀の小型五輪塔の石造物を数基乗せていた塚がある。分割調査したが下部遺構は検出されず、周辺部調査において周溝を確認したので、古墳の墳丘を再利用した塚と推測される。古墳の周溝覆土下部からは、古墳前期の土師器がまとまって出土している。周溝がかすめるように同時期の竪穴住居跡が検出されたので、古墳の時期は未確定である。上層の遺構確認面は、全面に富士宝永火山灰が覆い、近世前期には削平露出していたことがわかる。調査区南側部分谷頭の方形区画墓域も、同じく埋まらずに残っていたことが火山灰の層位が示している。古墳周溝はほぼ埋没しており、埋没後に溝が東西に掘削され、溝が埋まった後に土坑墓が出来るので、中世時から継続的にこの部分は使用されている⁽²⁾。塚の東西に箱薬研の小規模な溝があり、溝は南北に土地を区画している。

中世以前は、弥生時代後期の方形周溝墓が1基、古墳時代後期竪穴住居1軒、古墳時代前期竪穴住居1軒と、台地平坦部に古墳時代集落と弥生時代墓域が広がる状態を示している。これら事例は台地西側でも同じ傾向があることを示している⁽³⁾。古墳については調査区内では方墳状となり、一辺20mと推測される。周溝内に土坑があり遺物は検出されなかった。墳丘があり周溝も広いことから、古墳時代前期の可能性もある。能満地域には古墳が確認されていなかったのが新しい発見である。

能満城跡については、能満遺跡群の能満城を特化して付した印象があるが、上総府中推定地として積極的に評価する研究がある⁽⁴⁾。埋蔵文化財調査が始まったばかりであるが、その位置付けはこれからであろう。平成12年度に確認され、一部調査された大規模方形区画遺構については、「馬場の内館跡」の名称を与える指摘がある⁽⁵⁾。規模的に似通っている事例に、埼玉県川越市河越館跡がある⁽⁶⁾。この遺跡は、県指定史跡から昭和44年の保存運動を経て、数次わたる調査の結果、昭和59年国指定史跡となった経緯がある⁽⁷⁾。

（近藤 敏）

(1) 近藤 敏 「能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報12年度』（財）市原市文化財センター 2003

(2) 岸本雅人 「中・近世の遺構と遺物」『千葉東南部ニュータウン20有吉北貝塚2』（財）千葉県文化財センター 1998

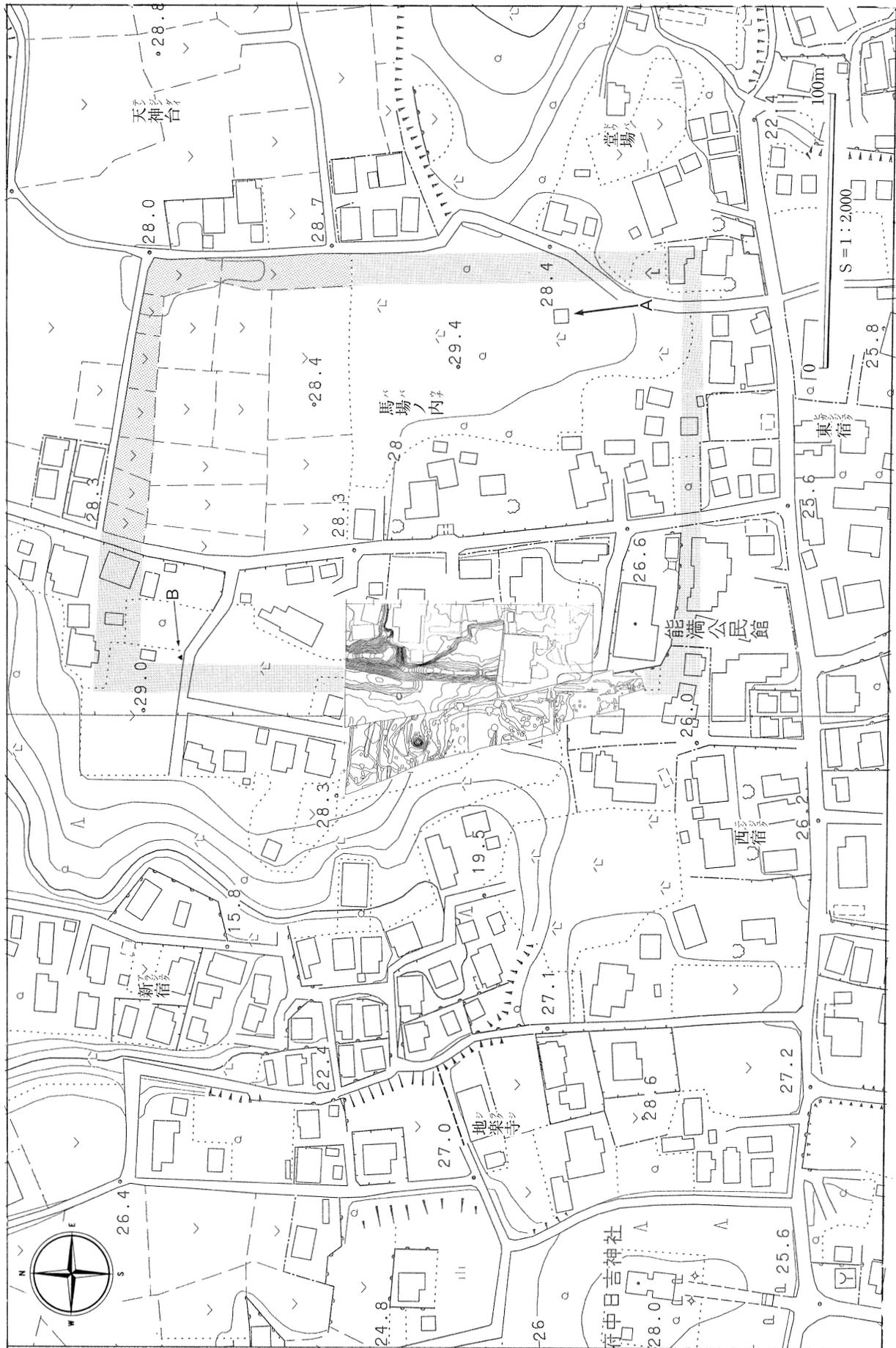
(3) 牧野光隆 「能満遺跡群二階堂地点」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告書』市原市教育委員会 2001

(4) 小川 信 「上総府中の成立と国衙機構」『中世都市「府中」の展開』思文閣出版 2001

(5) 小高春雄 「千葉県における地域別城郭研究史Ⅶ市原地域」『千葉城郭研究第7号』千葉城郭研究会 2003

(6) 谷井 彪 「河越氏館」『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会 1988

(7) 落合義明・田中 信 『河越氏と河越館』川越市立博物館 2000



能満城跡遺跡全体概要図

8. ^{みなみいわさき}南岩崎遺跡（1次・2次調査）

事業名 市道13号線（南岩崎・西国吉）埋蔵文化財調査委託（本調査）及びその2

所在地 市原市南岩崎212番5地先から176番3地先及び162番地先

調査期間 平成13年6月11日～平成13年10月30日

平成14年1月9日～平成14年3月22日（その2）

調査面積 2,300㎡及び850㎡（本調査）

調査概要 当遺跡は平成11年に7500㎡対象にして確認調査を行い、河岸段丘の標高34m以上の部分が本調査対象地域となった⁽¹⁾。養老川中流左岸側支流戸田川右岸の、ソフトローム上部のみ乗せる地形分類上、南総Ⅲ面に遺跡は位置する。13年度本調査は1、2次調査区（地形図A、B）を現道境界に分離して行うこととなった。

調査区南側台地上には吉野台古墳群があり、市指定吉野1号墳（地形図E）がある⁽³⁾。吉野1号墳は近隣部分の調査によって6世紀後半と推測されており、古墳は当遺跡主遺構より1世紀以上新しくなる。古墳下層には古墳時代前期の住居跡が検出されている。調査区においては、やや西寄りに遺構が集中している。しかし、遺跡の範囲としては調査区から、北方向100mに古墳時代住居跡が3軒検出されており、古墳時代の集落範囲がかなり広いと推測される（地形図D）⁽⁴⁾。

1次調査区（地形図A）は、西側の戸田川を見下ろす段丘上であり、北東方向から埋没谷が差し込んでおり調査区内において比高差2.5mとなった⁽²⁾。埋没谷付近には古墳時代中期の遺構が密集しており、遺存状態もよく大量の遺物が出土した。小形広口壺等の遺物集中箇所も検出され、竪穴状の遺構に伴わない遺物もかなり出土している。1次調査分は弥生時代後期竪穴住居跡13軒、古墳時代前期から後期竪穴住居跡34軒と溝、陥穴が検出された。その他中世の地下式壙が1基検出されている。

2次調査区（地形図B）には、弥生時代の断面V字形の環壕を連想させる南北方向の溝が、四民塚古墳を横断するように、古墳時代住居跡下から検出された（全体図矢印部分）。弥生時代住居跡が3軒検出されたが、この溝から西側のみの検出なので、居住区を区画する機能の可能性はある。溝東側には、大型壺が出土した溝状遺構があり、方形周溝墓の可能性はある。古墳時代は16軒の竪穴住居跡があり、古墳時代中期が大勢を占める。1・2次調査に於いて出土した遺物は、整理箱350箱になり当該期の出土量としては非常に多い。遺跡を覆う表土が厚く、保存状態が良好な遺跡である。

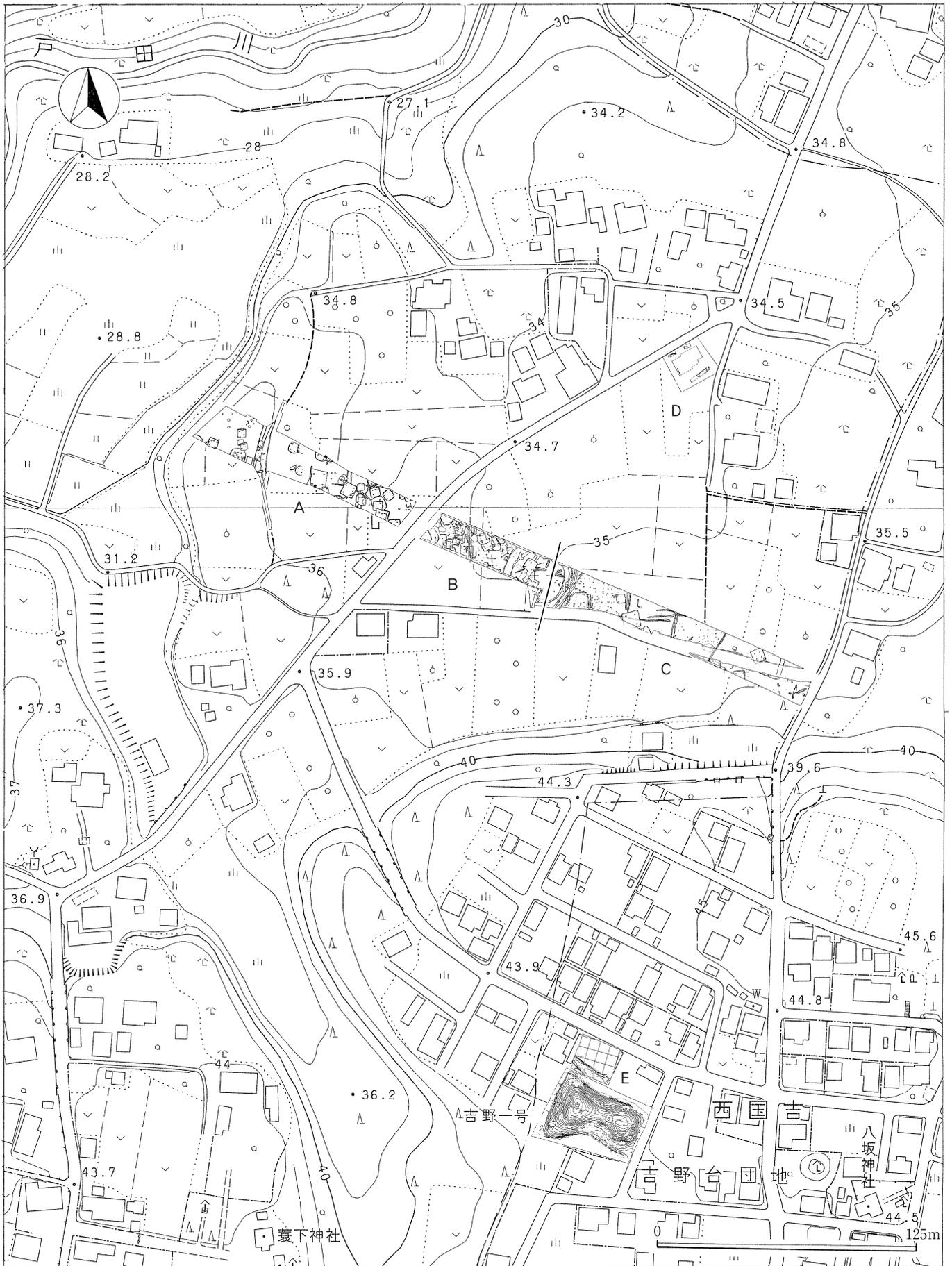
2・3次調査区（全体図参照）の境界に四民塚古墳があり、今回の本調査の結果規模が内径25m、外径34mの円墳であることが明確となった⁽¹⁾。中世の建物跡と井戸が各1基検出されており、3次調査区に関連遺構が検出されている。なお、平成14年度分3次調査区（全体図参照）現道部分については、平成15年度に市原市教育委員会ふるさと文化課が立会い調査を行っている。（近藤 敏）

(1) 田中清美 「南岩崎遺跡」『市原市文化財センター年報平成11年度』（財市原市文化財センター 2002）

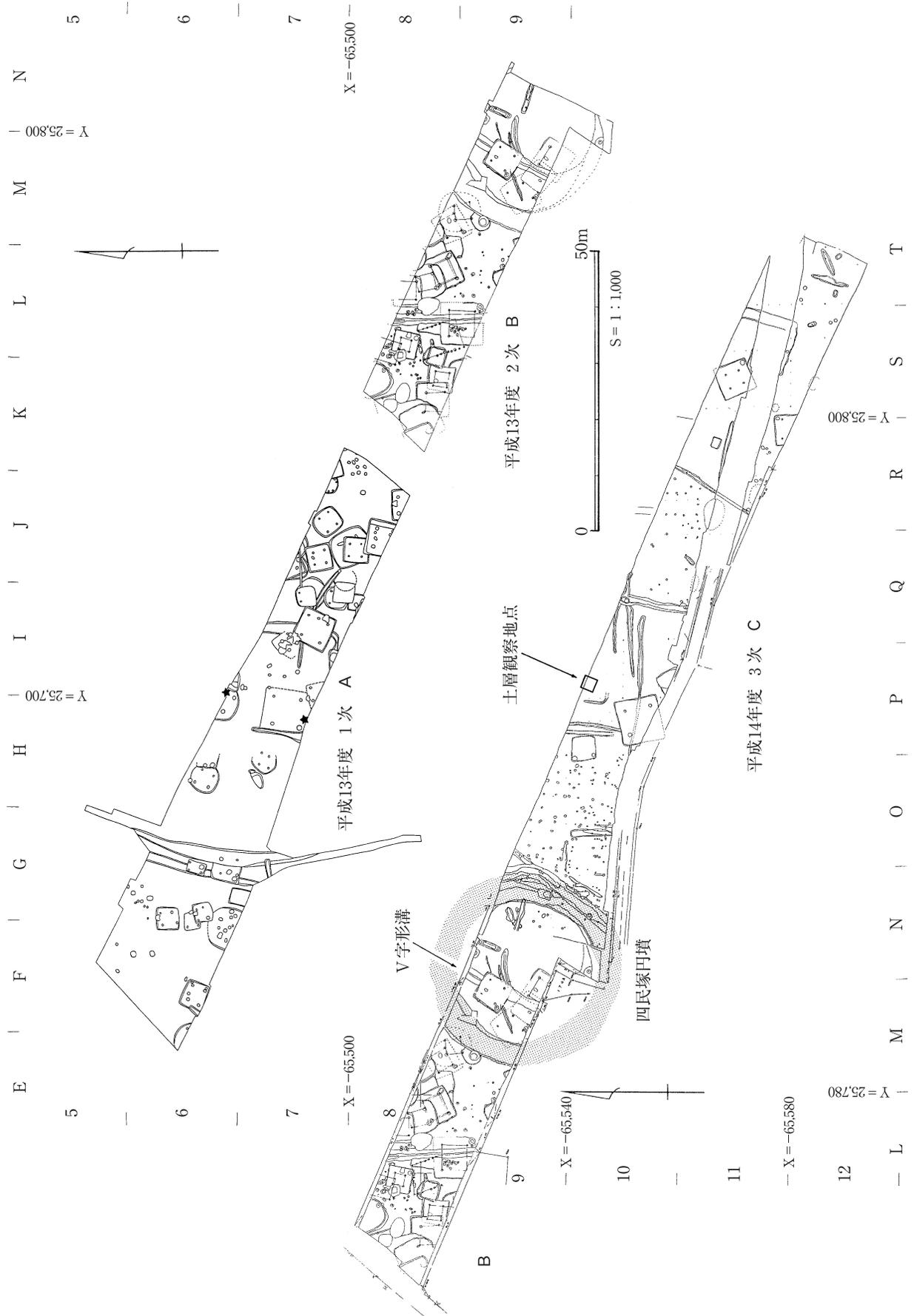
(2) 田中大介 「南岩崎遺跡」『市原市文化財センター遺跡発表会要旨13年度』（財市原市文化財センター 2002）

(3) 清藤一順ほか 「吉野1号墳・南岩崎吉野遺跡」『昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書』市原市教育委員会 1988

(4) 「南岩崎遺跡」『平成14年度市原市内遺跡緊急発掘調査概要』市原市教育委員会 2003



南岩崎遺跡全体図と地形図



南岩崎遺跡本調査全体図

9. ^{にしの}西野遺跡群D地点

事業名 市道5005号線埋蔵文化財調査委託

所在地 市原市西野184-1番地先

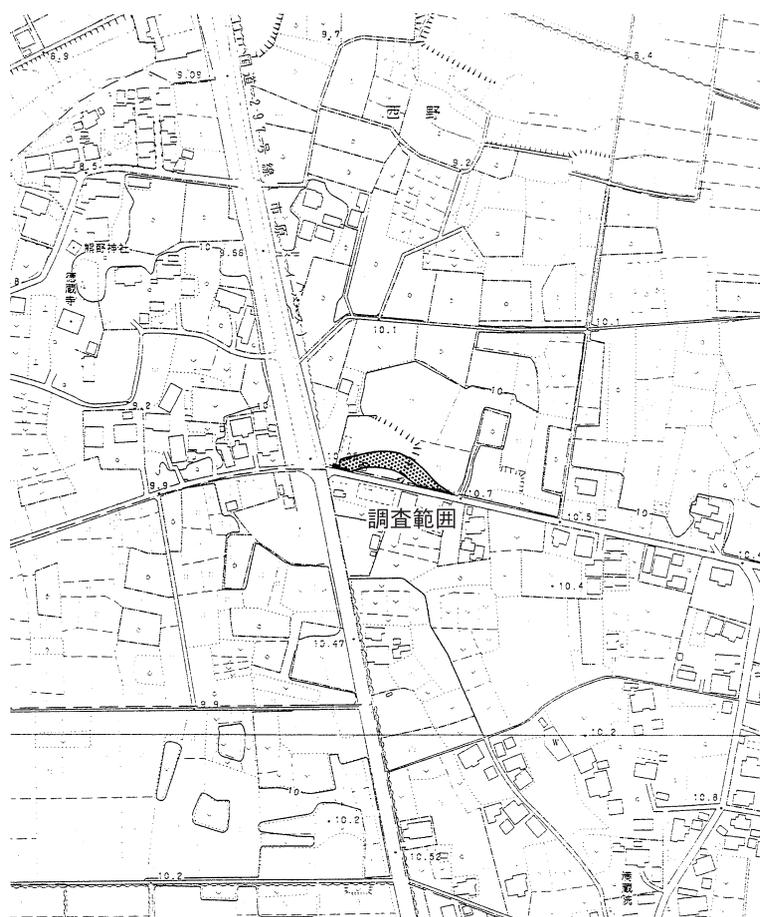
調査期間 平成13年10月19日～平成13年10月26日（確認調査）

平成13年11月15日～平成13年12月27日（本調査）

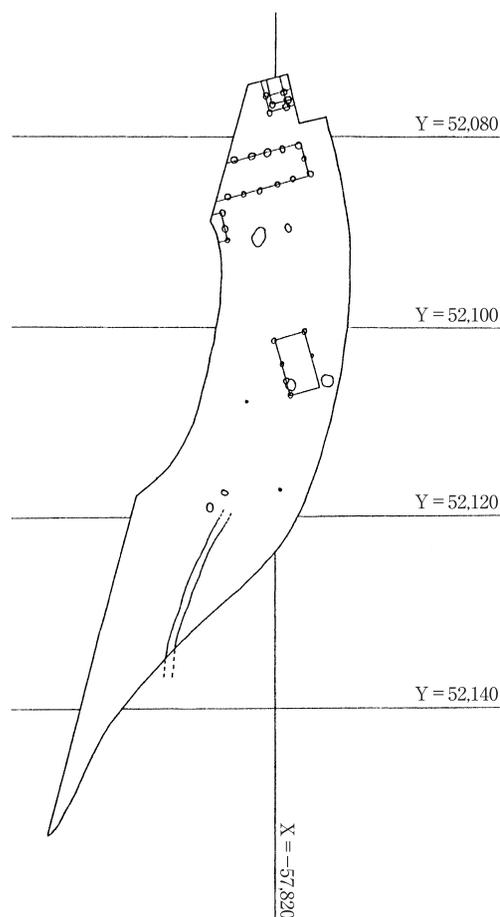
調査面積 900㎡のうち90㎡（確認調査）、および900㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、養老川中流域左岸を望む標高10m前後の微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として考えられている地域であり、これまでに数カ所で調査が行われてきた。西側約1km先には、「今富廃寺跡」が存在し上総国分寺系の瓦片が採集されており、隣接する十五沢坊ヶ谷遺跡C地点では、奈良・平安期の掘立柱建物跡が検出されている。ちなみに、本遺跡は国道297号バイパスの東側に隣接する調査区であり、西野遺跡群のD地点内にある。

調査の結果、奈良・平安時代掘立柱建物跡4棟、井戸状遺構2基、土坑5基、溝状遺構1条が検出された。また、古墳時代後期の土坑等も検出された。特に、2間×5間以上の規模を持つ奈良・平安期の掘立柱建物跡が検出され、桁行き方向の振れが、国道297号バイパスの西側にある西野遺跡群B地点の建物群とほぼ一致しており、B・D地区一帯の建物群を考察する上で興味深い。（小川浩一）



遺跡位置図 (1/5,000)



全体図 (1/800)

10. 市原条里制遺跡

事業名 若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査業務

所在地 市原市八幡266-1番地先他

調査期間 平成13年7月1日～平成13年7月30日

調査面積 480㎡うち48㎡の確認調査そのうち80㎡本調査

調査概要 市原条里制遺跡は、市原市北部養老川右岸、村田川左岸に挟まれた海岸平野地域に位置する。標高は市原台地海蝕段丘上においては約5m、海岸内房線上において約3mとなっており、北西方向に漸次下降して水利方向となる。条里地割りの存在は、古くから指摘されており⁽¹⁾、現在の上総総社飯香岡八幡神社の祭礼など伝承からも、研究されていた⁽²⁾。しかし考古学的調査は、昭和62年からはじまる東関東自動車道館山線にともなう埋蔵文化財調査を待つこととなる（地形図参照）。

調査の結果中世から古代に遡る条里制遺跡が確認され、「国衙に近接した中世国衙領の具体的な景観と変遷を示す資料」として位置づけられた⁽³⁾。今回の調査地点は、市原郡名寺と推定される光善寺廃寺の北西200m、新田川右岸に位置する⁽⁴⁾。また大規模調査である高速道路調査の菊間徳万地区第8区に隣接し、溝状遺構001～003が検出された地点から、同遺構が延びる可能性が高いことが調査前から推測された⁽⁵⁾（地形図②・③）。今回調査地点は2ヶ所に分かれ、平成10年度調査区の隣接部分（地形図①）と、上述の②の2地点となった⁽⁹⁾。付近は高速道路調査の成果を受けて、平成8年から小規模な調査を続けており、条里制遺跡の広がりを確認している^{(6)～(11)}。①地点は黒灰色土層から自然木が集中している部分と検出したが、明確な畦畔は確認できなかったため、確認調査として終了した。②の部分には、297号線に沿った新田川の隣接部となり、湧水が激しく確認調査後、本調査に移行したが十分な面積を得ることが出来ずに終わった。

本調査中、砂層を掘り込む溝状遺構を検出したが、砂層は崩壊する危険があるので砂層上面の範囲の調査を行った。溝覆土上部からは墨書の人形が出土し、顔に目鼻口が描かれている。そのほか数カ所に切り口のある小枝が数本出土しており、祭祀関連の遺物と思われる。土器・須恵器等は少なく、時期が限定できるものは少ない。出土した人形は、平成15年度に保存処理を行った。（近藤 敏）

(1) 平野元三郎「上総国分寺付近の条里制遺構について」『國學院雑誌56巻5号』 國學院大學 1956

(2) 山田安彦「伝承地の地積図」『地理vol.25、No.4 特集地籍図』 古今書院 1980

(3) 笹生 衛「市原条里制遺跡」『千葉県の歴史資料編中世1』 千葉県

(4) 須田 勉「光善寺廃寺」『千葉県の歴史資料編考古3』 千葉県 1998

(5) 小久貫隆史『市原条里制遺跡』（助千葉県文化財センター 1999

(6) 小出紳夫「市原条里制遺跡」『市原市文化財センター平成8年度』 2000

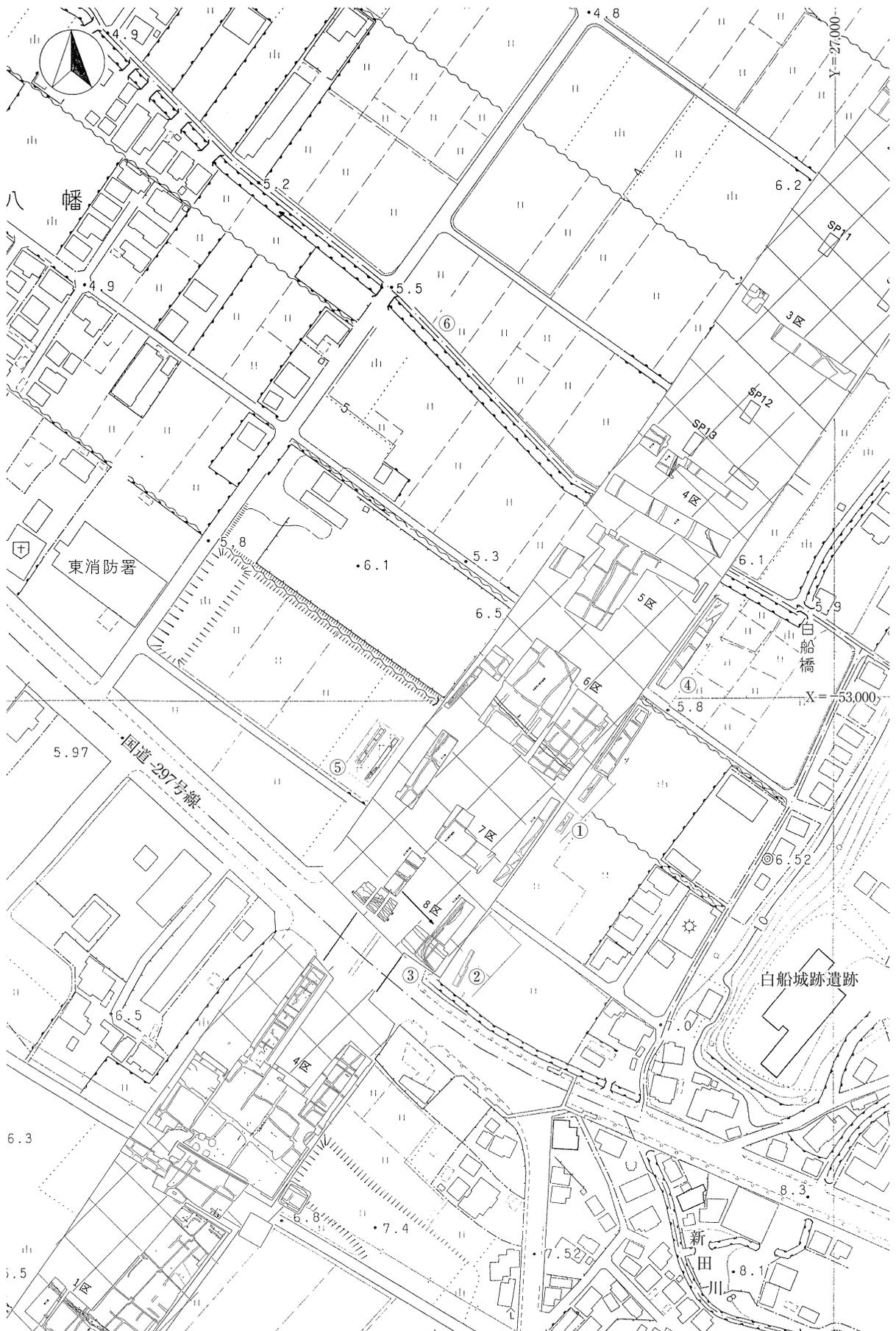
(7) 田中清美「市原条里制遺跡（八幡砂田地区）」『平成9年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 1998

(8) 田中清美「市原条里制遺跡（菊間徳万地区A）」『市原市文化財センター年報平成9年度』 2000

(9) 鶴岡英一「市原条里制遺跡（八幡・砂田地区）」『市原市文化財センター年報平成10年度』 2001

(10) 北見一弘「市原条里制遺跡菊間徳万地区B」『市原市文化財センター年報平成11年度』 2002

(11) 北見一弘「市原条里制遺跡菊間徳万地区C」『市原市文化財センター年報平成12年度』 2003



市原条里制遺跡地形図とその位置 (市原市基本図C-6 1:2,500 平成7年修正)

11. ^{にしの}西野遺跡群B地点

事業名 海上地区遺跡発掘調査事業（国庫補助分）

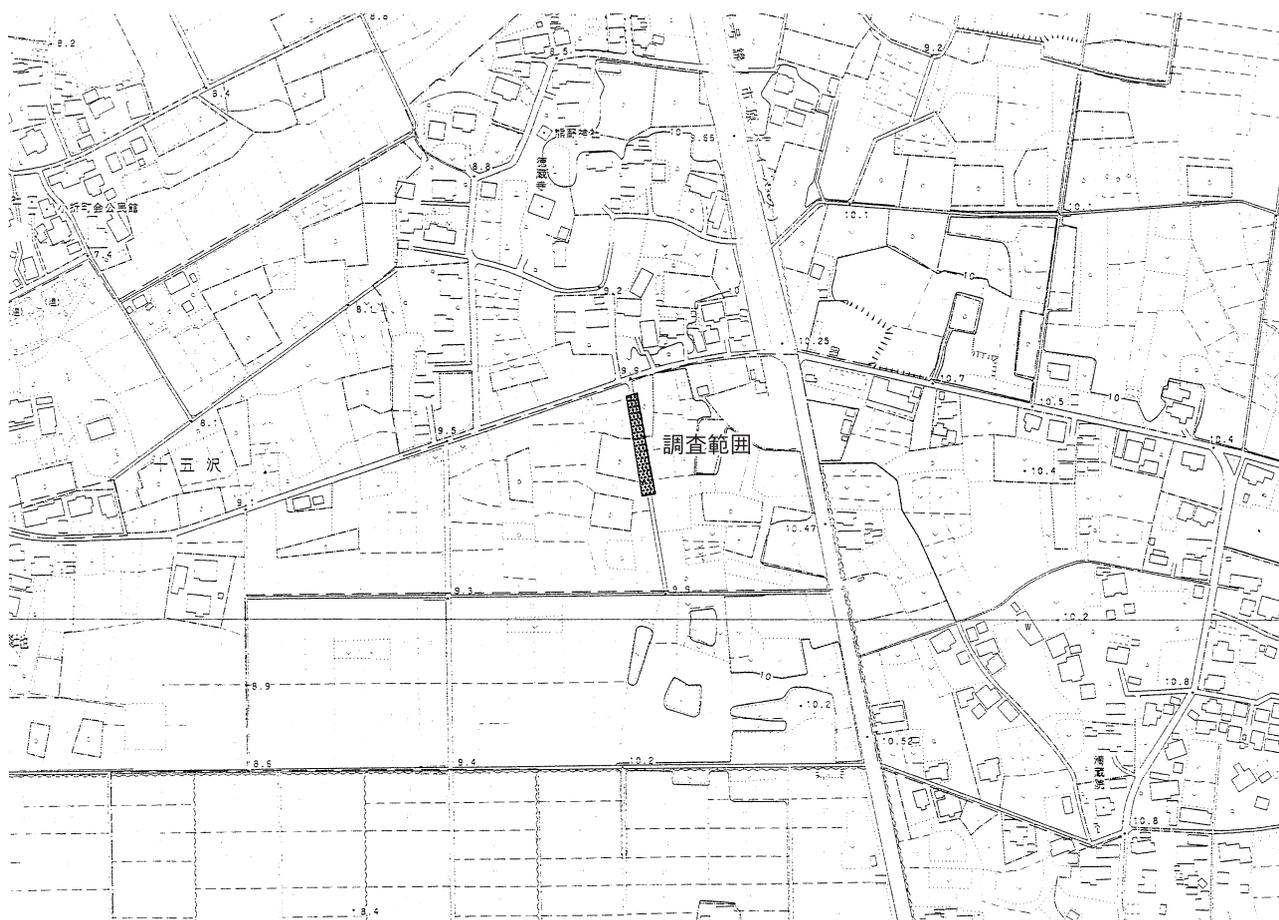
所在地 市原市西野字中村470他

調査期間 平成13年9月12日～平成13年9月28日

調査面積 320㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、養老川左岸を望む標高9mの微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として考えられている地域であり、これまでに数カ所で調査が行われてきた。西側約1km先には、「今富廃寺跡」が存在し、上総国分寺系の瓦片が採集されている。隣接する十五沢坊ヶ谷遺跡C地点では、奈良・平安期の掘立柱建物跡が検出されており、瓦塔片が採集されている。ちなみに、本遺跡は国道297号バイパスに隣接する西側に存在する調査区であり、西野遺跡群のB地点内にある。

今回の調査区では、「海上郡衙」との関連性も想定される奈良時代末から平安時代初め頃と考えられる、桁行き5間のものを含む掘立柱建物跡3棟が検出された。そのうち、北側の総柱掘立柱建物跡には、木柱が残存していた。これらの建物跡の桁行き方向の振れが、北側（市道112号線部分）及び西側（補助対象外分）に隣接する掘立柱建物跡や東隣の西野遺跡群D地点（市道5005号線部分）の建物群とほぼ一致しており、B・D地区一帯の建物群を考察する上で興味深い。（小川浩一）



遺跡位置図（1/5,000）

12. ^{にしの}西野遺跡群C地点

事業名 海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査（国庫補助分）

所在地 市原市権現堂字田畑339-1ほか

調査期間 平成14年2月4日～平成14年2月12日

調査面積 3,160㎡のうち41㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川が、「国分寺台」と呼ばれる台地の付近で大きく西に流れを変える、中下流域左岸を東に望む、標高8～9m前後の氾濫原にある。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として周知されている地域である。

調査の結果、奈良・平安時代の土師器・須恵器片や中近世陶磁器片が出土した。また、遺構としては、近世を中心とする溝状遺構が6条検出された。堆積土は、北側に向かうにつれて、現水田耕作土直下から黄灰色砂層や暗灰色シルト質砂層が交互に厚く堆積しており、上記の地理的条件から、洪水等による砂の堆積が顕著であったと考えられる。（小川浩一）



遺跡位置図（1/5,000）

13. ^{な ら だいぶつだい}奈良大仏台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査
所在地 市原市奈良字屋敷台592の一部、565-2の一部
調査期間 平成13年4月9日～平成13年4月12日
調査面積 825.13㎡のうち82㎡（確認調査）
調査概要 遺跡は、村田川左岸上流域に位置した、北に延びる標高74m前後の舌状台地にある。縄文時代早期土器片が僅かに出土した土坑が、1基検出されたのみであった。

14. ^{みなみいわさき}南岩崎遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査
所在地 市原市寺谷字的場15・16・17番の一部
調査期間 平成13年4月16日～平成13年4月20日
調査面積 520㎡のうち52㎡（確認調査）
調査概要 遺跡は、養老川の支流戸田川の右岸を望む、標高56m前後の台地上に位置する。今回の調査では、調査前より古墳状のマウンドが確認されており、古墳時代後期と考えられる円墳や墳丘下に存在する前期の竪穴住居跡が確認された。

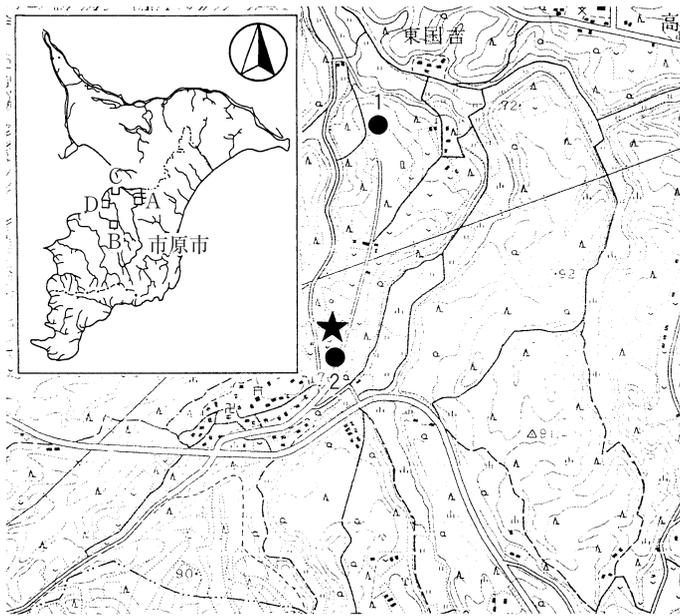
15. ^{やわたじん やあと}八幡陣屋跡

事業名 市内遺跡発掘調査
所在地 市原市八幡字仲町1277番1の一部ほか
調査期間 平成13年5月14日～平成13年5月16日
調査面積 209㎡のうち20.9㎡（確認調査）
調査概要 遺跡は、東京湾を西に望む標高2.7m前後の砂堆上にある。寛文～元禄年間に堀家・大久保家が、当地周辺に陣屋を構えたという伝承が残っている。幕末～近代以降の礎石建物跡が確認された。

16. ^{かしわばら}柏原遺跡群

事業名 市内遺跡発掘調査
所在地 市原市柏原字原229番
調査期間 平成13年7月23日～平成13年7月25日
調査面積 431㎡のうち43㎡（確認調査）
調査概要 遺跡は、椎津川の支流今津川を北に望む、標高6m前後の微高地上に位置する。
今回の調査では、土坑や溝等が確認されたが、遺物の出土が殆どなく時期不明である。
報告書 『平成13年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 2002

(小川浩一)

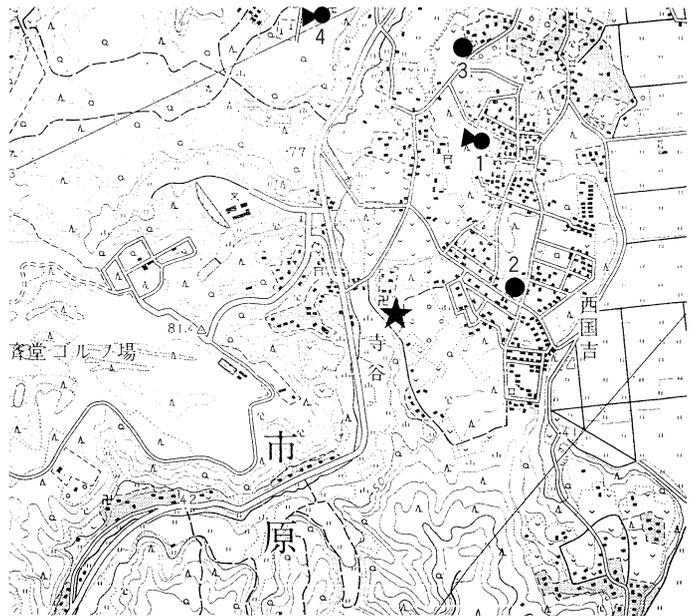


A. 奈良大仏台遺跡

★ 調査区

1. 奈良大仏台遺跡 (A地点)
2. 奈良大仏台遺跡 (B地点)

奈良大仏台遺跡 (財)市原市文化財センター 1992

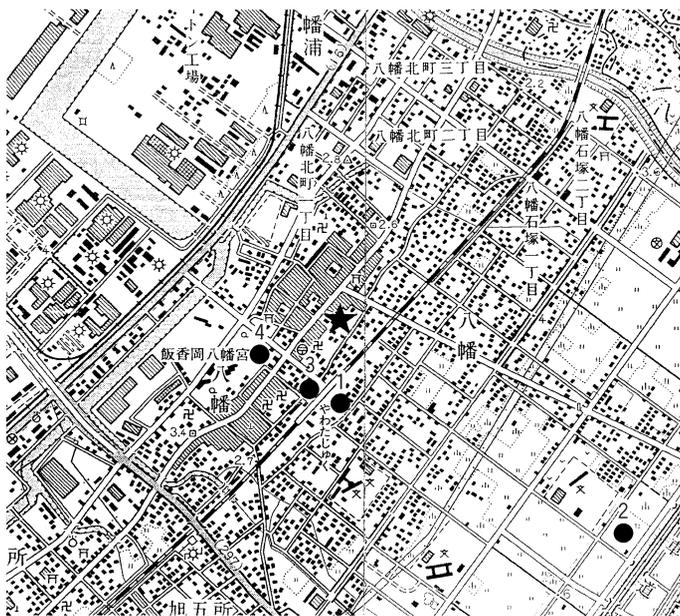


B. 南岩崎遺跡

★ 調査区

1. 吉野1号墳
2. 吉野63号墳
3. 南岩崎遺跡
4. 報恩寺3号墳

吉野1号墳・南岩崎遺跡 市原市教育委員会 1987
西国吉新林遺跡 市原市教育委員会 1994

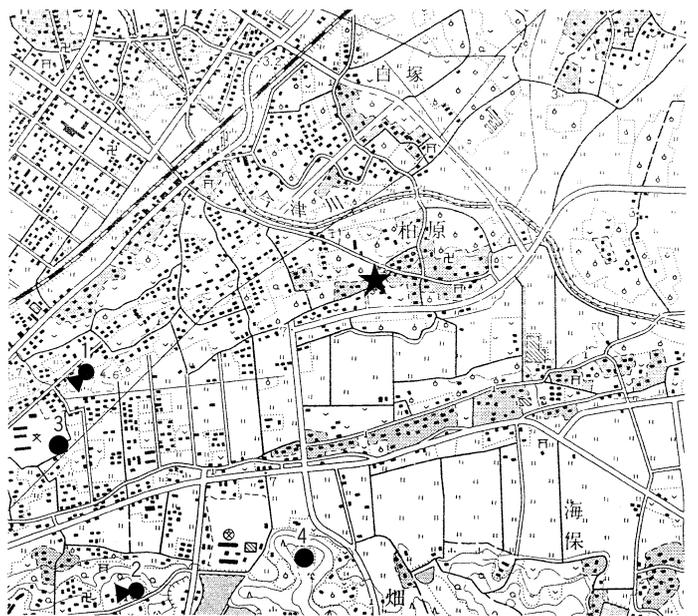


C. 八幡陣屋跡

★ 調査区

1. 八幡御墓堂遺跡
2. 市原条里制遺跡
3. 霊応寺跡
4. 飯香岡八幡宮

市原条里制遺跡 (財)千葉県文化財センター 1998
八幡御所跡推定地 (財)市原市文化財センター 1999



D. 柏原遺跡群

★ 調査区

1. 姉崎二子塚古墳
2. 姉崎天神山古墳
3. 姉崎山新遺跡
4. 畑木城跡

千葉県重要古墳群測量調査報告書 千葉県教育委員会 1994
-市原市姉崎古墳群-
千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書II 千葉県教育委員会 1996
-旧上総・安房国地域-

調査区の位置と周辺の遺跡 (1:25,000)

17. 古甲遺跡 (第6次)

事業名 上総国府推定地確認調査

所在地 市原市郡本1-430

調査期間 平成13年10月25日～11月22日

調査面積 200㎡

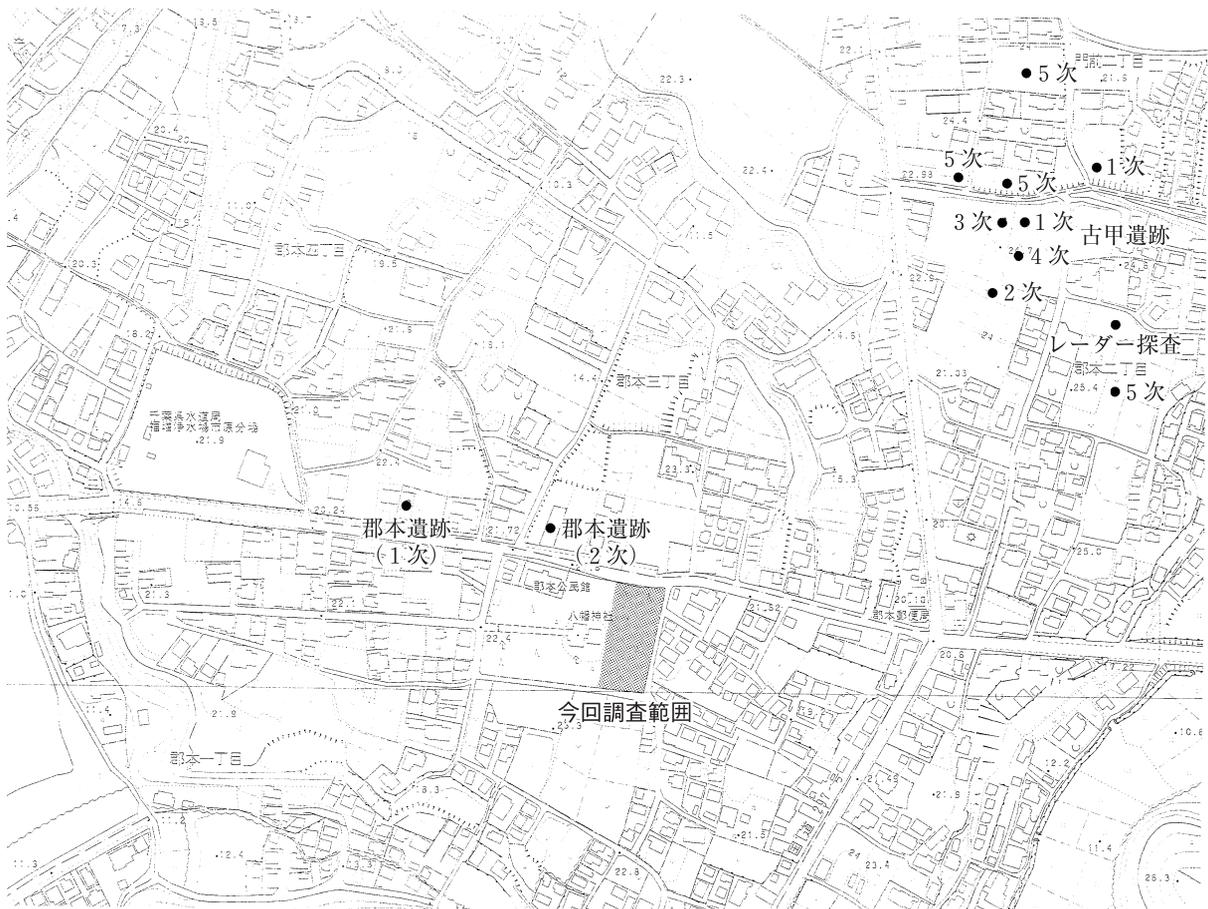
調査概要 古甲遺跡における国府推定地の確認調査は、13年度で6次を数えるところとなった。1次調査開始以来すでに10年以上経過し、周辺の宅地化により、国府の捕捉も困難さを増している。

今年度の調査は、市原郡衙推定地でもある郡本八幡神社境内において実施した。地名や社殿の礎石などから古代の官衙の存在が有力視されている部分である。ただし、これまでの周辺の発掘調査では、官衙の中心的建物と思われる遺構の検出には至っていない（下記文献を参照されたい）。

調査は対象地に6本のトレンチを設定して行った。調査の結果、弥生時代の住居跡7軒、奈良・平安時代の住居跡2軒などが検出されたが、掘立柱建物跡等は確認されなかった。住居跡の一つからは8世紀初頭の土器が出土し、遺構に伴うものではないが、やはり8世紀初頭の畿内系土師器が出土した。この時期の遺構はこれまでの周辺の調査では検出されておらず、当該時期の遺跡は今回の調査区より南方に展開している可能性が高い。（高橋康男）

須田 勉 「上総国府関連遺跡」『千葉県歴史資料編考古2奈良・平安時代』千葉県 1998

田所 真 「市原郡衙関連遺跡（郡本遺跡）」『千葉県歴史資料編考古2奈良・平安時代』千葉県 1998



今回の調査範囲とこれまでの主な調査地点 (1/5,000)

18. ^{にしの}西野遺跡群B地点

事業名 海上地区遺跡発掘調査事業（補助対象外）

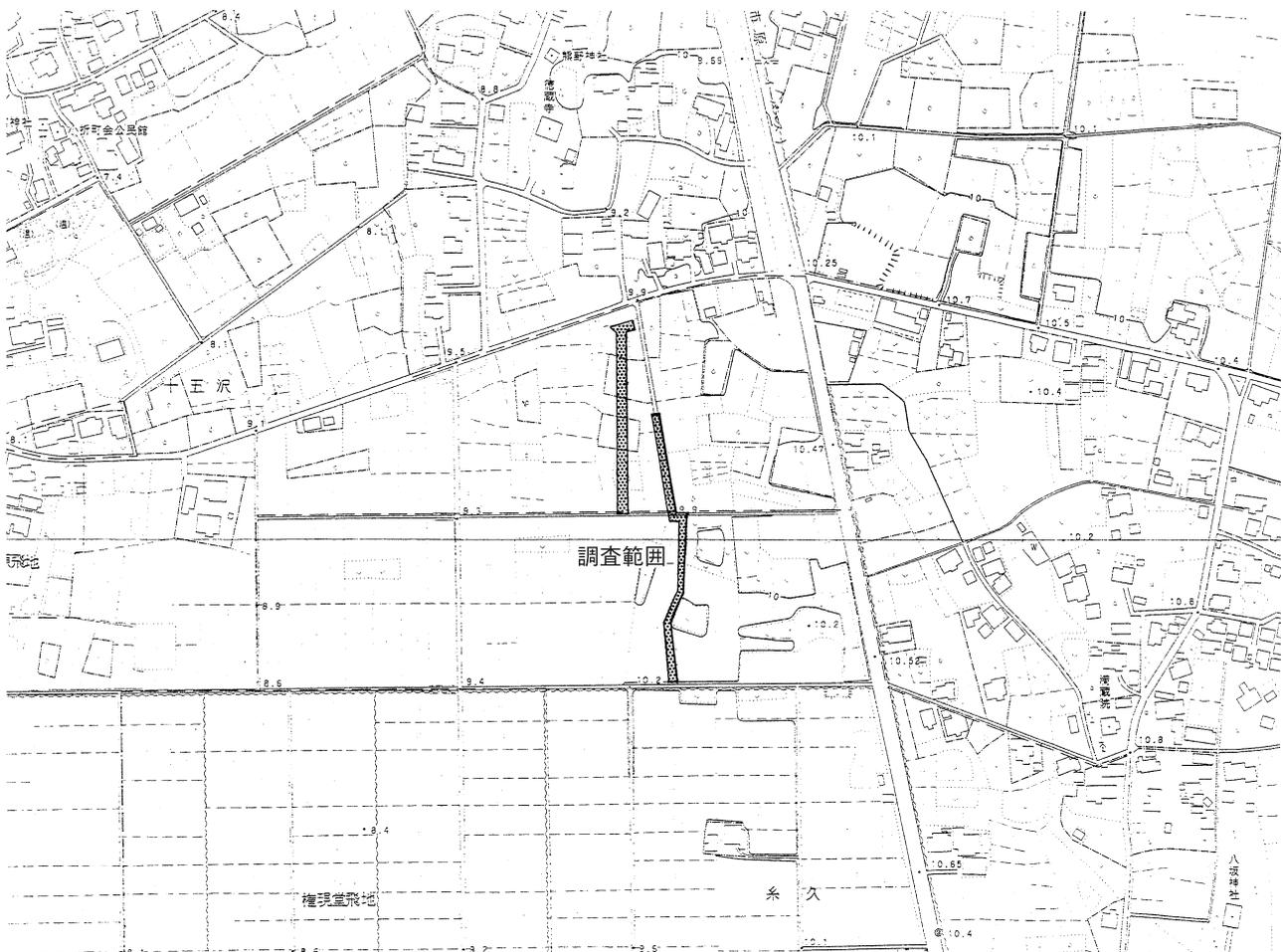
所在地 市原市西野字中村470ほか

調査期間 平成13年6月20日～平成13年10月16日

調査面積 1,830㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、養老川左岸を望む沖積地にある微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として周知されている地域である。

調査の結果、掘立柱建物跡5棟を検出した。そのうち、北側の2棟は奈良時代末を中心とする時期まで遡ると考えられる。柱穴の掘形が大きく、西面に廂が付く構造であると考えられる。建物跡の桁行き方向は、東側及び北側において検出された建物跡とほぼ一致している。また、南側に奈良時代末期頃の土坑が検出されている。遺物がまとまって出土しており、土器棄て穴であろうか。また、これより南側には主に中世期の遺構が検出されている。平成10年に調査された十五沢坊ヶ谷遺跡C地点において、中世前期の遺構群が検出されており、「今富保」との関連が想定されている。ちなみに、南側約1km先に分目要害遺跡が存在し、15・16世紀の遺構が検出されている。（小川浩一）



遺跡位置図（1/5,000）

19. ^{にしの}西野遺跡群C地点

事業名 海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査（農林分）

所在地 市原市権現堂字町畑306-1ほか

調査期間 平成14年1月28日～平成14年3月8日

調査面積 26,400㎡のうち360㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川が「国分寺台」とよばれる台地付近で大きく西に流れを変える、中下流域左岸を東に望む、標高7～9m前後の氾濫原にある。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として周知されている地域である。

調査の結果、平安時代の土師器片や中世土器、中近世陶磁器片及び銭などが出土した。また、遺構としては、近世を中心とする溝状遺構が9条、また中世土坑が2基検出された。堆積土は、現水田耕作土直下から黄灰色砂層や暗灰色シルト質砂層が交互に厚く堆積しており、上記の地理的条件から、洪水等による砂の堆積が顕著であったと考えられる。（小川浩一）



遺跡位置図 (1/5,000)

20. 畑木小谷遺跡

事業名 発掘調査事業

所在地 市原市畑木字向247-2ほか

調査期間 平成13年5月9日～平成13年6月6日

調査面積 201㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、椎津川右岸の標高42mの台地上に位置する。縄文早期中葉～後葉の炉穴1基と沈線文土器・条痕文土器、弥生時代後期の住居跡1軒などを検出した。当遺跡については、これまでに縄文早期・田戸上層式を中心とした土器を伴う炉穴群と、弥生後期の集落が調査・報告されている。炉穴群は、沈線文土器を伴う初期のものを含んでおり、注目される。弥生後期の集落は、今回の調査で台地北側縁辺部まで広がることが判明した。調査前には、畑木向4号墳の周溝と墳丘の一部の調査が中心になると目されていたが、中世以降の溝や近年の耕作による地形の改変により旧状が失われていた。

報告書 『市原市畑木小谷遺跡Ⅱ』 市原市文化財センター 2002

(西野雅人)

北見一弘 「畑木小谷遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 1999

北見一弘 「畑木小谷遺跡」『市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡（第2次）』（財）市原市文化財センター 2000

21. 椎津新林遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査事業

所在地 市原市椎津字新林2,210-1ほか

調査期間 平成14年3月11日～平成14年3月25日

調査面積 416㎡／4,161㎡（確認調査）

調査概要 椎津川と久保田川に挟まれた谷奥部の台地上に位置する。架設道路建設予定地の総延長350mの範囲について10%の確認トレンチを設定した。検出した遺構は縄文時代の石鏃が出土した土坑と、古代～中世と推定される道路跡である。出土遺物は縄文早期後葉の条痕文土器がややまとまっているが、数少ない。分水嶺を挟んで南側に隣接する袖ヶ浦市豆作台遺跡では、子母口式と鶴ヶ島台式を中心とした条痕文土器が多量に出土しており、また、北西側の椎津中林遺跡でも多数の炉穴が見ついている。今回の調査によって、両遺跡の中間の台地平坦部には遺構・遺物が希薄であることが確認された。これは、椎津川と久保田川の谷に面した部分が主な居住域となったことを示している。

報告書 「椎津新林遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 2003

(西野雅人)

宮本敬一 「椎津中林遺跡」『市原市文化財センター年報 昭和60年度』（財）市原市文化財センター 1986

井上 賢他 『豆作台遺跡Ⅰ』（財）君津郡市文化財センター 1999

ほそやま 22. 細山遺跡

事業名 残土埋立用搬入路建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市天羽田字出先台1170-1の一部

調査期間 平成14年3月25日～平成14年3月29日

調査面積 76㎡／760㎡（上層確認調査）、8㎡／760㎡（下層確認調査）

調査概要 遺跡は、北側を深城川左岸に注ぐ支谷により、南側を久保田川右岸に注ぐ支谷により開析された標高約66mの台地上に立地する。道路建設予定の路線に7か所のトレンチを設定した。遺構は、調査区北端のトレンチから旧石器時代の剥片単独出土地点1か所と縄文早期の炉穴5基を検出した。炉穴は早期後葉・子母口式土器を伴うものである。それ以外のトレンチについてはローム層に至る攪乱により、上層遺構の確認は不可能であった。

西側から北側の隣接地では、千葉県文化財センターの調査によって、旧石器時代の石器群と縄文早期の炉穴群が検出されている。石器群は、北側地区において、立川ローム層最下部（Ⅸ層～Ⅹ層）の今から約3万年前の層位を中心に出土しており、集中地点が3地点並んでいる。縄文時代の炉穴群は、南側地区において11群16基を検出しており、深城川谷奥のヤジ山遺跡・大ッ作遺等の炉穴を伴う遺跡群の一角をなす。時期は早期後葉の田戸上層式終末から子母口式にかけてであり、この時期の充実した土器群として評価されている。細山遺跡の炉穴群はその西半分が調査されたものとみられ、東側の未調査区を合わせるとヤジ山遺跡と同等の規模となることも充分考えられる。（西野雅人）

小笠原永隆 「細山(1)(2)遺跡」『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書5』

（財）千葉県文化財センター 2000



細山遺跡の炉穴群 (1:2,500)

23. 能満城跡遺跡

のうまんじょうあと

事業名 市道241号線（能満・山木）埋蔵文化財調査委託（確認調査）

所在地 市原市能満629番地

調査期間 平成15年1月29日～平成15年2月28日

調査面積 4,120㎡のうち412㎡（確認調査）

調査概要 能満城跡は、能満遺跡群（遺跡番号799）中の北半分が能満城跡（遺跡番号802）となり、台地縁辺部及び谷部を含む範囲となっている⁽¹⁾。能満城跡については、道路建設工事により平成11年度4,200㎡を対象に確認調査を行い、平成12～13年度に1,750㎡の本調査を終了した⁽²⁾。この調査によって、調査区内に南北220m、東西150mの長方形区画溝の一部が検出され、中世前半期の（仮称）能満馬場ノ内館跡と、呼称することが出来るであろうか⁽³⁾。

今回の確認調査区は、一連の調査区の更に北にあり、平成13年度調査区と連続している。また能満馬場ノ内館跡推定範囲の、外側北西部にあたることになる。字は南平台、居心城、新宿にあたり、南平台地区が、館跡と同じ台地上になる。残りは全て斜面地か、谷底部分である。

台地上は方形周溝墓が2基検出され、先年度調査と群をなしている。古墳時代前期、後期竪穴住居跡も検出され集落跡を形成している。また弥生時代後期の竪穴住居跡も検出されている。それらは能満遺跡群北部と同様な様相を示している⁽⁴⁾。

それら古墳時代以前の遺構を切る遺構が、中世の土坑、小竪穴となっており、これらも先年の調査で検出された中世土坑群の連続するものと考えられる。台地斜面の傾斜変換線沿いの台地上では、中近世と考えられる溝状遺構が数条検出されている。出土遺物は、近世のものが多いが、14世紀の青磁片もあり時期は即断できない。南平台と居心城の字境界には、折れ歪みのある切り通しが存在し、現在通路になっている。同じく北側の字境界も切り通しの通路になっている。そのため居心城地区は、コの字状に掘り割りがある可能性がある。西側斜面は台地が抉られ、平坦地を造っている。昭和30年代には住宅があり、宅地であったようで近世以前からのひな壇と考えられる。ひな壇の上には縦堀条の溝があり、土坑から近世の播り鉢が出土しているが数層の硬化面があり、中世まで遡る可能性がある。谷底部分については、2ヶ所にトレンチを設定したが、明確な中世遺構は検出されなかった。しかし室町期の風炉が出土しており、隣接部の西側の城山地区、東側の居心城地区との間部分なので慎重に取り扱いたい。地下2mまでの掘削では湧水が多く、調査には十分な安全策が必要である。

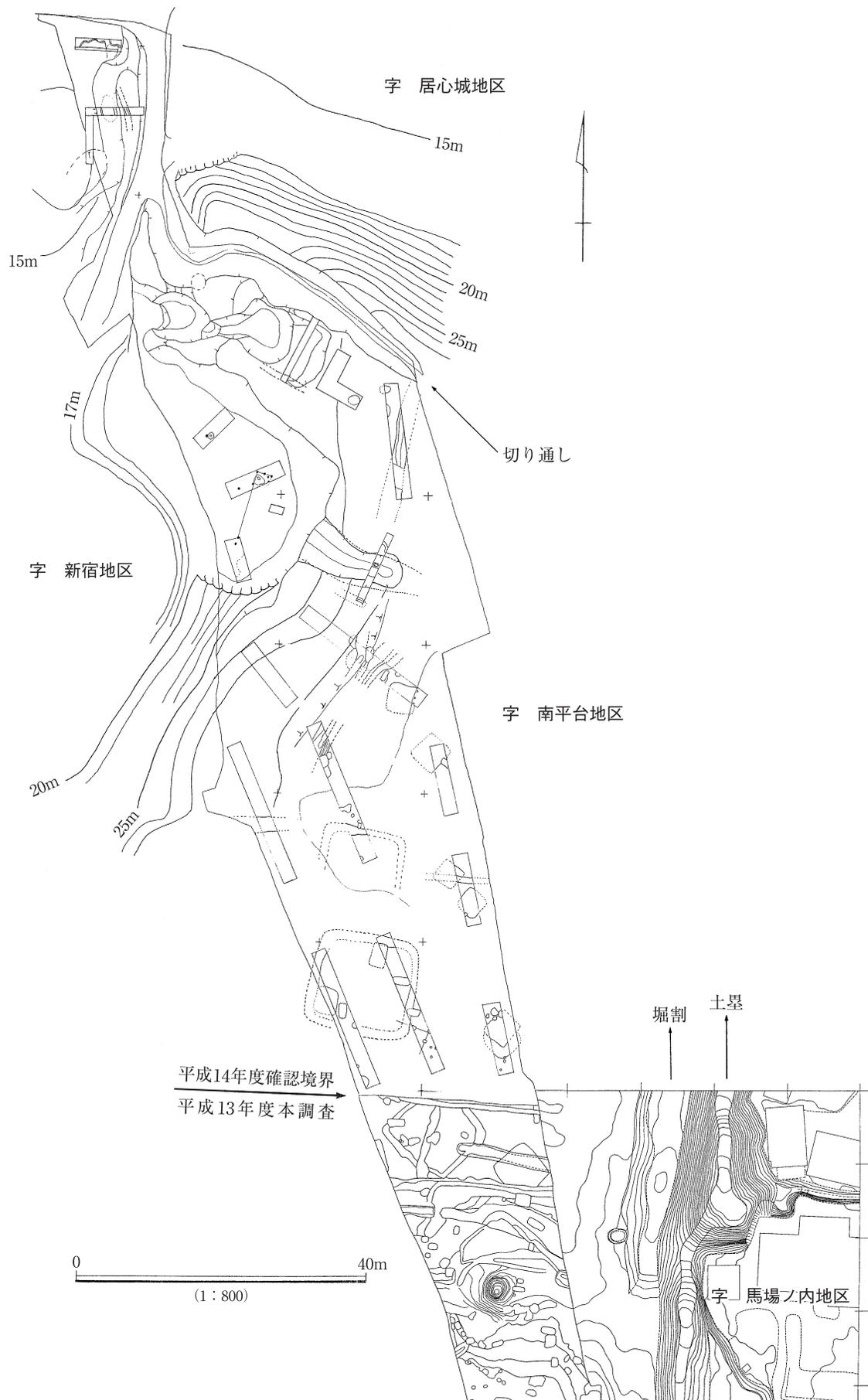
能満城跡は、中世については複数の城館跡の複合したものであり、古代以前は能満遺跡群として古墳時代、弥生時代の集落群である。現在までの調査では、奈良平安時代の遺構遺物は検出されていない。（仮称）能満馬場ノ内館跡の存在の確認は、今後、中世上総国衙の推定地として何らかの調査を進めるべきであろう。（近藤 敏）

(1) 『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)千葉市・市原市・長生地区（改訂版）』 千葉県教育委員会 1999

(2) 近藤 敏 「能満城跡遺跡」『市原市文化財センター遺跡発表会要旨13年度』（財）市原市文化財センター 2002

(3) 小高春雄 「千葉県における地域別城郭研究Ⅰ市原地域」『千葉城郭研究』 第7号千葉城郭研究会 2003

(4) 牧野光隆 「能満遺跡群二階台地点」『平成12年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 2001



能満城跡平成14年度確認調査全体図

24. 南岩崎遺跡（3次調査）

事業名 市道13号線（南岩崎・西国吉）埋蔵文化財調査委託（本調査）

所在地 市原市南岩崎162番3地先から285番2地先

調査期間 平成14年9月17日～平成15年2月17日

調査面積 1,130㎡（本調査）

調査概要 平成11年度に確認調査を行い、平成13～14年度に本調査対象部分の最終調査である。平成13年度年報の南岩崎遺跡1・2次の全体図に、平成14年度本調査分の全体図をまとめて掲載している。南岩崎遺跡は南岩崎遺跡群内、大字南岩崎字根本台、塚越、井戸向ある。南岩崎遺跡群は、大字南岩崎と、大字西国吉地籍の吉野台団地造成区画を除いた標高60m～30mの段丘面にある⁽¹⁾。当南岩崎遺跡は其中で35m前後の低位段丘南総Ⅲ面に位置し、ソフトローム下は粘土層となる⁽²⁾。

縄文時代の遺構は陥し穴6基、集石1基と中後期の遺物包含層のみである。弥生時代は2次調査からの方形周溝墓の残り部分一部のみである。古墳時代中期竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡1棟があり、住居跡は地床炉が無いものが多く、土製の五徳が出土している。また大型住居跡では土器などの大量出土地点に鉄鏃が2点出土している。その他の住居跡では石製模造品等が出土している。古墳は2、3次調査境界の字塚越に位置し、吉野古墳群（129-7）の四民塚古墳である（分布図とは若干位置が南にずれる⁽¹⁾）。3次調査の周構内からは、6世紀の須恵器が出土しているので当該期と考えられる。

奈良平安時代の遺構はなく、中世と考えられる掘立柱建物跡が2棟以上並ぶことが確認された。2次調査にも同期の遺構検出があり、関連が注目される。建物跡は古墳周溝を切る溝が平坦に埋没した後に柱が立てられている。しかし周囲の溝方向と、建物方向とは平行している。遺物は非常に少なく、近隣の西国吉砦との関連に興味を持たれる。

南岩崎遺跡第1次調査の埋没谷部分は、古墳時代の遺構確認面まで約2.5mあり、第3次でも約1mあった⁽³⁾。第3次調査では古墳時代中期の遺構を確認する面を、黄褐色新期テフラ層上面にした。古墳時代中期包含層はその上層にある。そのため中世、古墳時代とも新期テフラ層上面において、遺構を精査している。また、ほとんどの遺構は、黄褐色ソフトローム上面が遺構の掘込み下面である。

遺跡は新期テフラ層上面において中世、古墳時代、弥生時代、縄文時代後期包含層まで調査し、その調査終了後、さらに重機による排土を厚さ約50cm行い、ソフトローム層上面を露出させた。暗褐色及び黒褐色のソフトローム漸移層下面で、遺構を確認したものが6基の陥し穴遺構である。遺物は伴っていないが、層位的には縄文時代早期以前の掘削であることが、確認できた。集石は新期テフラ下部に確認しているので、出土遺物からも縄文時代中期である。調査範囲は南に開け、北側に比高差10mほどの南総Ⅱ面台地があるので、北風を受けず、土壌の移動が少ない条件であるといえる。

南岩崎遺跡は南岩崎遺跡群中、弥生時代の環壕集落の可能性があり、古墳時代中期の大規模集落でもある養老川中流域の貴重な遺跡群の一角にある。平成16年度より整理作業に入る予定である。

（近藤 敏）

(1) 『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)千葉市・市原市・長生地区（改訂版）』 千葉県教育委員会 1999

(2) 徳橋秀一・遠藤秀典 「姉崎地域の地質（付図）」『地域地質報告－姉崎地域の地質－』 地質研究所 1984

(3) 田中大介 「南岩崎遺跡」『市原市文化財センター遺跡発表会要旨13年度』（財）市原市文化財センター 2002

25. にしの西野遺跡群B地点

事業名 市道112号線埋蔵文化財調査委託（本調査）

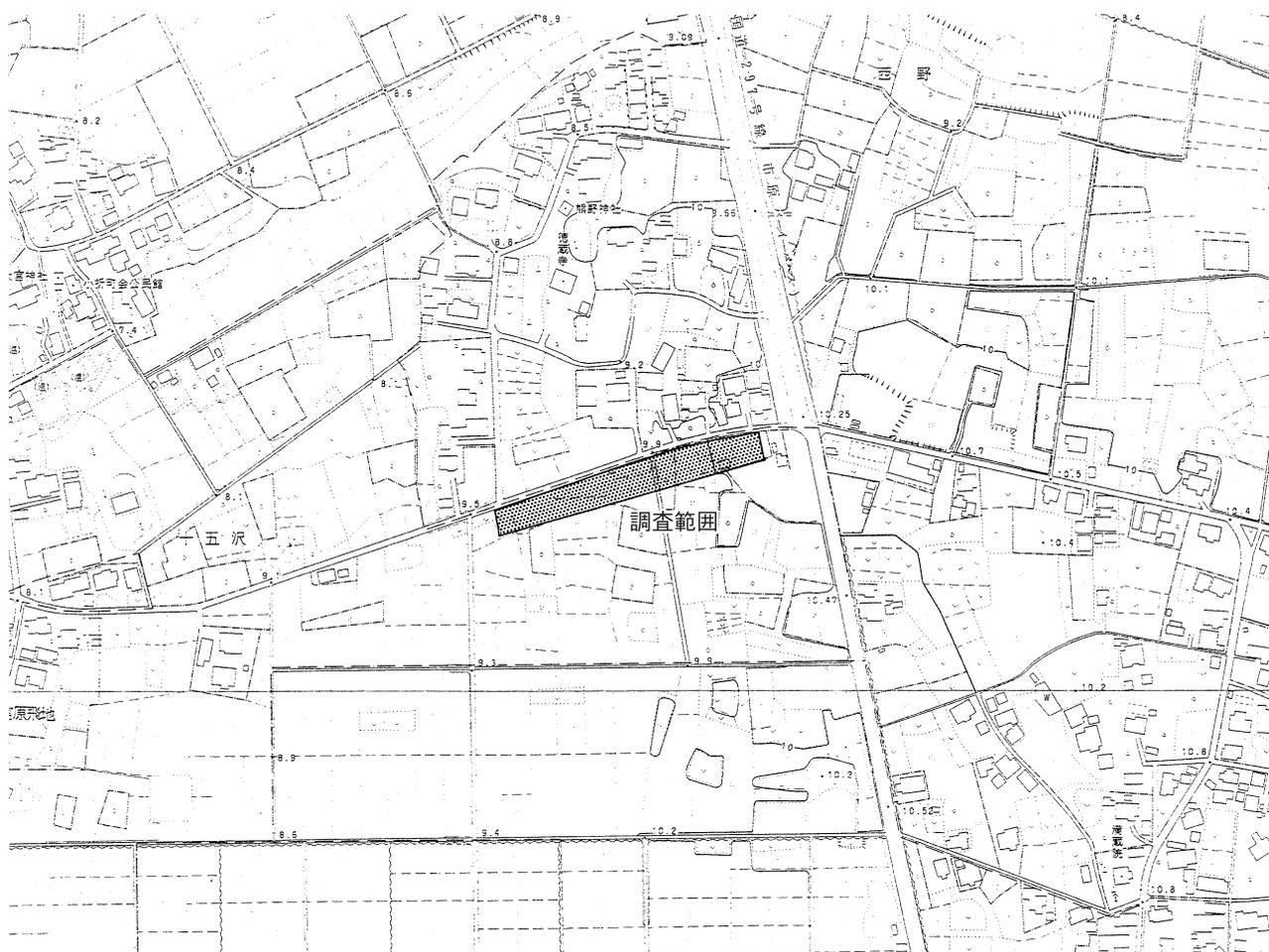
所在地 市原市西野字中村430-1

調査期間 平成14年4月11日～平成14年8月29日

調査面積 3,800㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、養老川左岸を望む標高9 m前後の微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として考えられている地域であり、これまでに数カ所で調査が行われてきた。西側約1 km先には、「今富廃寺跡」が存在し上総国分寺系の瓦片が採集されている。また、平成13年度に調査が行われた、南側に隣接する、ほ場整備部分において、奈良時代末～平安時代始めにかけての、桁行き5間の掘立柱建物跡が検出されている。

調査の結果、奈良・平安時代掘立柱建物跡8棟、溝状遺構8条（奈良・平安時代4、近世4）などが検出された。掘立柱建物跡は、いずれもほぼ同じ桁行き方向を示している。時期は、奈良時代末～平安時代始めを中心とした時期であると考えられる。また、平成13年度調査分（B・D地点）の掘立柱建物跡とも、建物の振れはほぼ一致しており、この一帯がほぼ同時期に機能していたことを窺わせる。
(小川浩一)



遺跡位置図（1/5,000）

やわたみはかどう
26. 八幡御墓堂遺跡

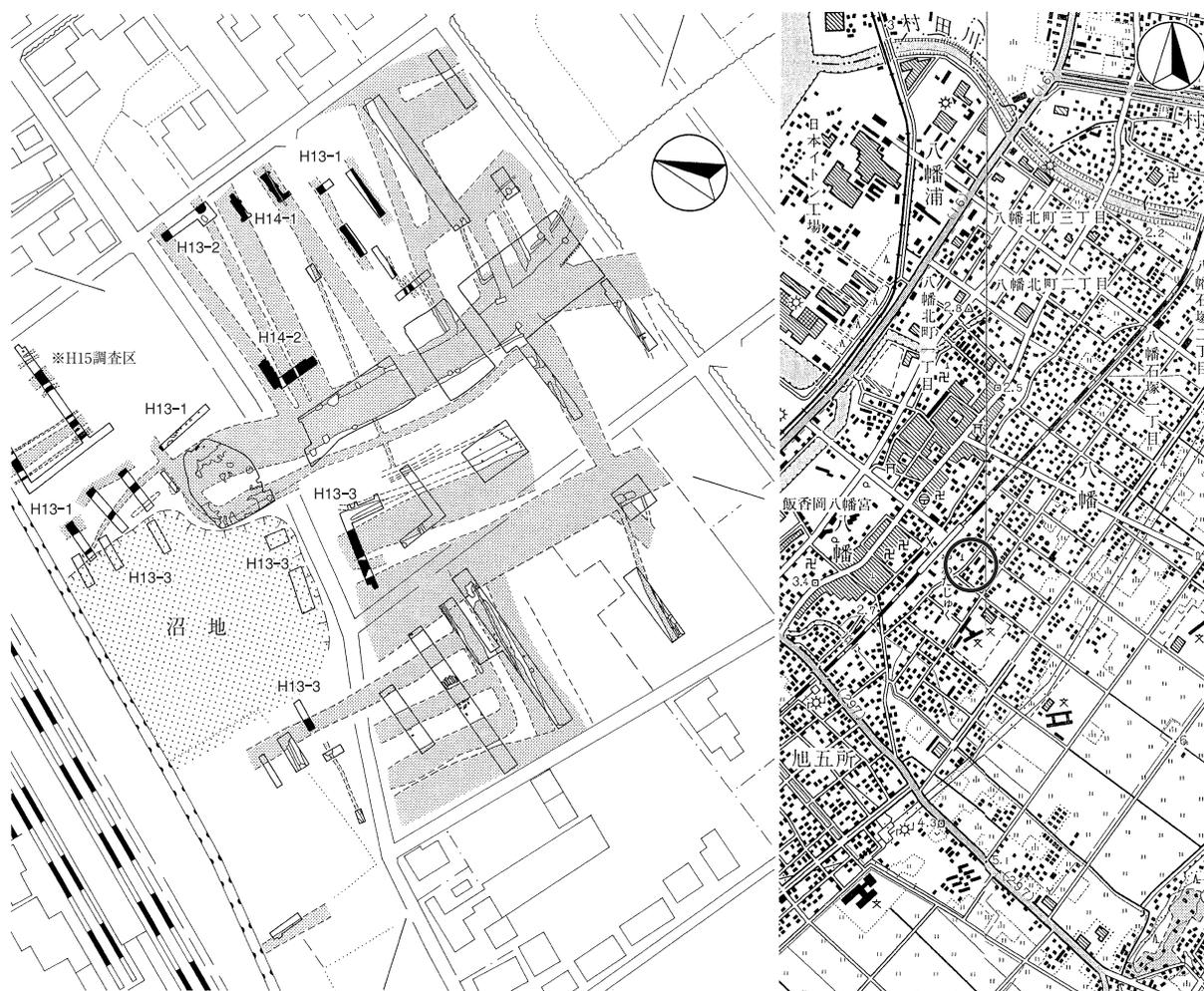
事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市八幡818-1（その1）、817-8他（その2）

調査期間 平成14年6月10日～平成14年6月20日（その1）

調査面積 36㎡／355㎡（その1）、66㎡／663.75㎡（その2）

調査概要 2回にわたる調査で3本のトレンチを設定し、御墓堂墓地へ通じる道路遺構（平成8年度調査で検出）に直交する中世溝が4条検出された。断面形状はすべてなだらかで幅広く、本遺跡共通の特徴である。排水目的の遺構群と推察されるが、特定空間を圍繞、ないしは規制する区画としての性質は不明である。耕作地に伴うものか。地山が脆弱な砂層で湧き水も豊富なため、流砂による埋没が早く、遺構の維持には恒常的な浚渫・掘り直しを必要とするので、遺構それぞれの時期差はあまり開かないのではないと思われる。覆土中から常滑産陶器や瀬戸・美濃系陶器、土錘、銭などの戦国期遺物群が出土した。なお、平成16年2月現在で知り得る中世遺構群の配置を下図に示したが、時期と範囲については整理報告で若干変更の可能性があることを明記しておく。（櫻井敦史）



御墓堂遺跡中世遺構配置図（1:2,000）・遺跡位置図（1:25,000）

27. にしの西野遺跡群D地点

事業名 海上地区遺跡発掘調査（国庫補助分）

所在地 市原市西野字十二天146ほか

調査期間 平成14年11月11日～平成14年12月11日

調査面積 5,320㎡のうち266㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川中下流域左岸に展開する標高10m前後の微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として考えられている地域であり、これまでに数カ所で調査が行われてきた。平成13年度に調査された南側に隣接する部分（市道5005号線）において、桁行き5間以上の掘立柱建物跡が検出されている。

調査の結果、調査区内ほぼ全域にわたって、遺構が確認されており、奈良・平安期の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピット28基や、土坑4基が確認された。また、中世まで下るとと思われるピット群や土坑、溝等が確認された。

（小川浩一）



遺跡位置図 (1/5,000)

28. にしの西野遺跡群D地点

事業名 海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査（農林分）

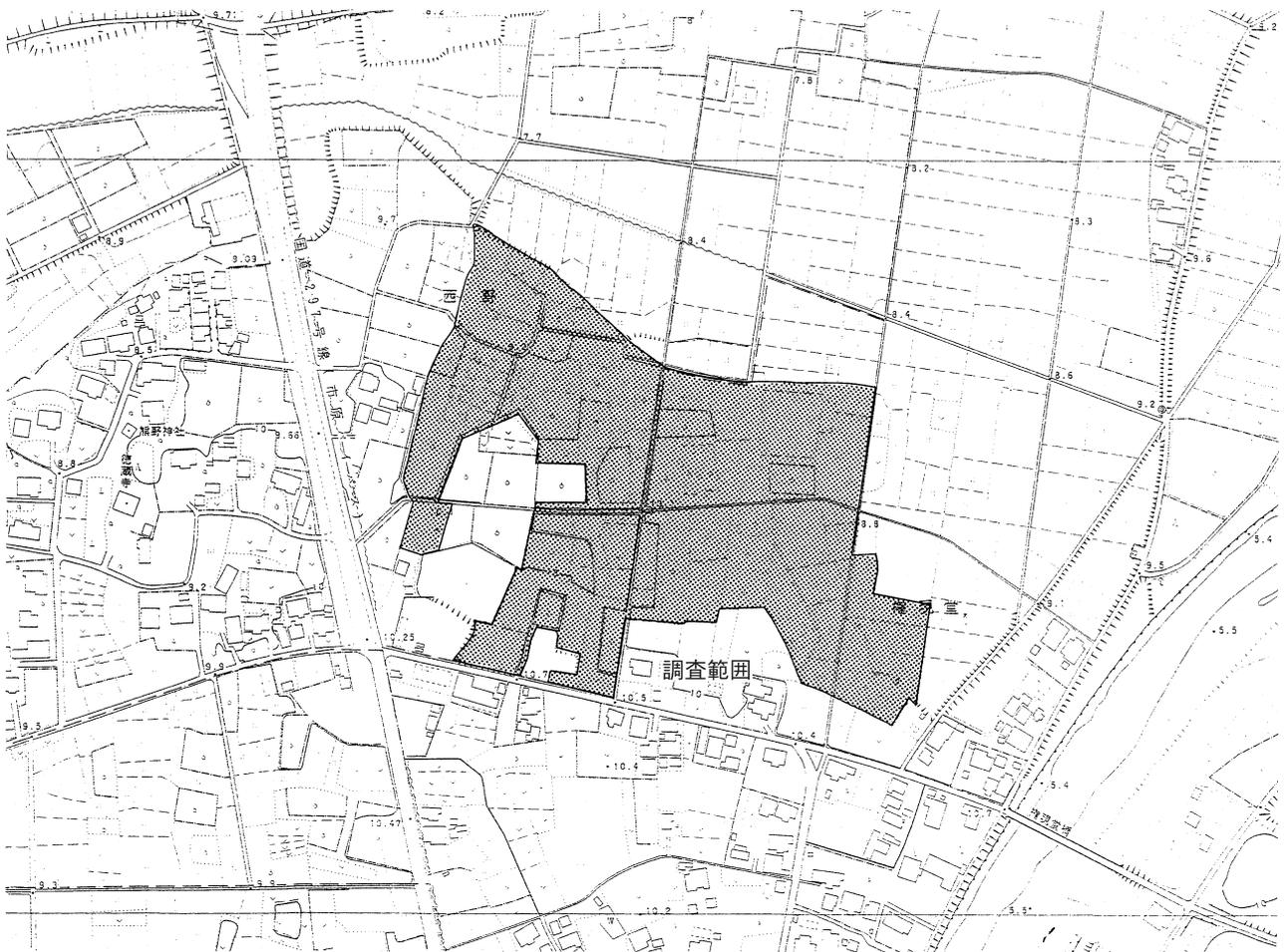
所在地 市原市権現堂地先

調査期間 平成14年9月17日～平成15年2月13日

調査面積 53,360㎡のうち1,508㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は、養老川中下流域左岸に展開する標高8～10m前後の微高地上に位置する。遺跡周辺は、かねてより「海上郡衙」推定地として考えられている地域であり、これまでに数カ所で調査が行われてきた。平成13年度に調査された南側に隣接する市道5005号線部分において、桁行き5間以上の掘立柱建物跡が検出されている。

調査の結果、中央から西側を中心に、奈良・平安期と考えられる掘立柱建物跡や土坑、溝状遺構、奈良・平安期及び中世の井戸状遺構等が確認された。掘立柱建物跡の柱穴の規模は、径60～80cm前後で不整な円形を呈し、建物の桁行き方向の振れが、複数に振れていると考えられる。遺物は、奈良時代末～平安時代前期を中心に出土している。B地点の掘立柱建物跡の在り方とは、異なった状況であると予想される。
(小川浩一)



遺跡位置図 (1/5,000)

29. ^{いなりだい}稲荷台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査事業

所在地 市原市藤井1-187、1-189-1

調査期間 平成14年8月29日～平成14年10月10日

調査面積 662㎡（本調査）

調査概要 市原古道遺跡として知られる古代官道の一部を検出した。路面は、台地の緩斜面を切り通し状に深く開削して形成されており、後の中世前半期に大規模な改造が行われたことが判明した。調査前の地表面でも細長い窪み状を呈していた。

当遺跡は祭祀に関連する遺構・遺物を多量に検出した古代の居館跡であり、道路跡はその東側を区画するものとなっている。北側は字「道成久保」に、南側は亥の海道遺跡で検出した道路跡につながる。また、道路跡の西側の台地平坦面では9世紀後半を中心とした竪穴住居跡を5軒検出している。

報告書 「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 2003

(西野雅人)



古代官道発掘状況

30. あねさきさんしん 姉崎山新遺跡（第3地点）

事業名 八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（本調査）業務委託

所在地 市原市姉崎1451-5番地先

調査期間 平成14年4月11日～平成14年8月21日

調査面積 1,950㎡本調査

調査概要 市原市北西部姉崎海岸平野、標高5～6mの砂丘上にあり、砂丘の前浜、後浜部分から砂丘前面海側部分となる。当調査区は、姉崎山新遺跡第3地点の最も北側の五井寄りにある。北東200mには第1地点調査区がある。調査区内の現道は幅が1m程の小道で、砂丘帯の後浜と砂丘を分けるラインを抜けていた（白抜き□点）。地元住民の談話では、道から海側は一段下がり落ちて畑があったそうである。調査は現道の通行維持するため、3分割して行われ、前浜と後浜部分の低地部は湧水処理のため土留めをし、水切りのために調査区周囲を木杭と板で取り囲んだ。客土下は灰色砂質土層の旧耕作土となり、中世の土壌はやや暗色の灰色砂質土層である。しかし湧水が激しいため重機械で遺構確認面である黄褐色砂層まで掘削した。調査区隅に集水枡を設け、地下水を強制排水した。

現道に沿って中世の溝1号遺構（図参照）があり、8、27号の井戸が1号溝を破壊している。27号は横井戸と考えられ、灌漑用と思われる。13号溝は1号溝と平行しているが覆土から時期は古代と考えられる。1号と13号の間には、一段落ちており水田用に開削された様子がみられる。

31号は低地部調査時に確認された古墳時代中期の古墳周溝であり、後続調査で41、45号調査とした周溝と接続し、内径20m前後の円墳になる。31号部分に遺物が集中して検出されたが、竪穴住居跡と複合していた可能性があるため、明確にとらえられなかった。墳丘内に42号竪穴状遺構があり、古墳時代中期遺物を包含していたので祭祀遺構の可能性はある。

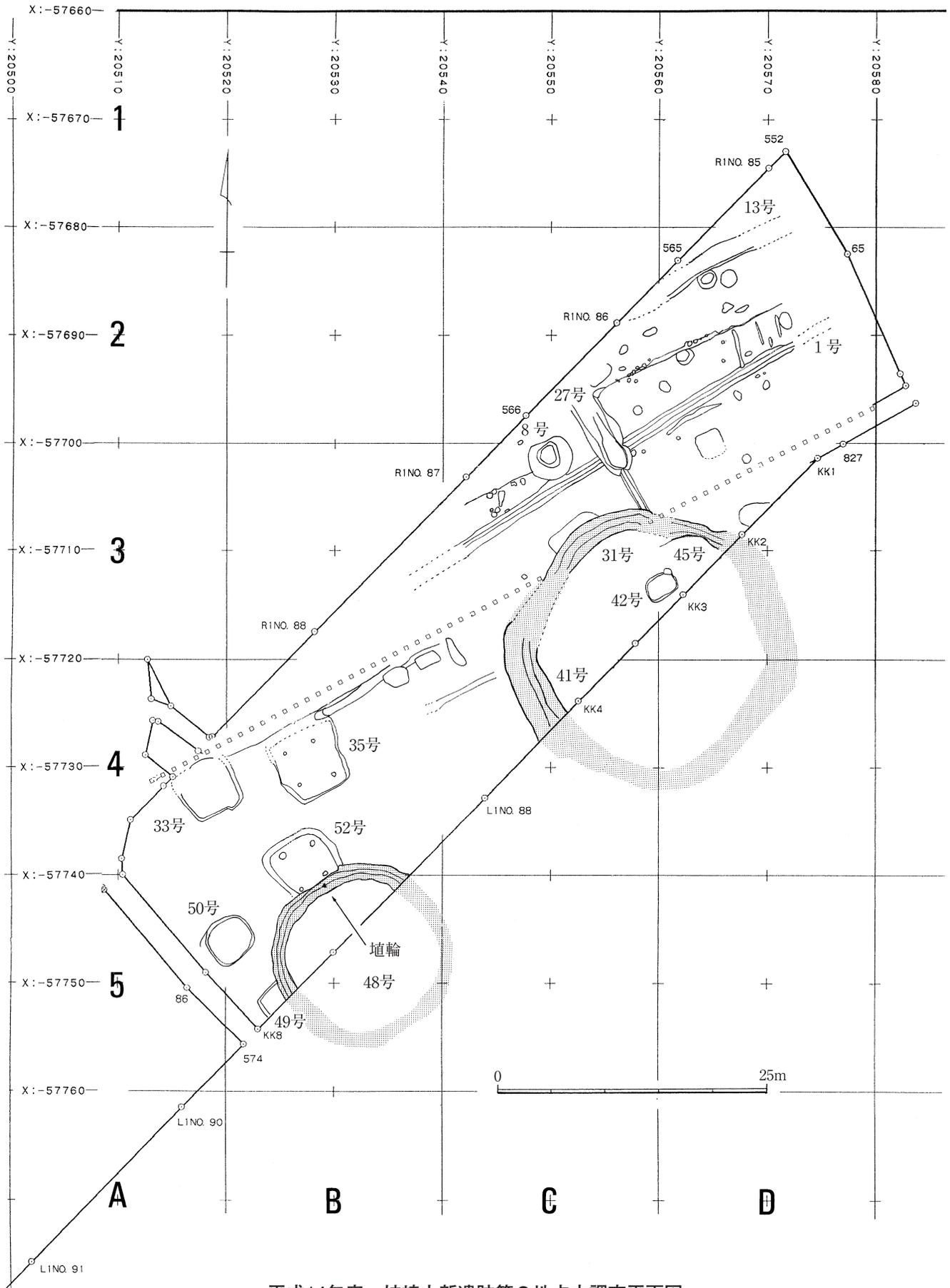
33、35、49、50、52号は古墳時代中期の竪穴住居跡である。35号はハマグリ主体の貝ブロックが覆土内にあり和泉期の甕等も数多く出土した。1点のみであるが剣形の石製模造品が出土している。52号は床面精査で柱穴跡が暗色に残り、4本柱であることが分かった。この住居は48号周溝に切られており、新旧関係は明確であり複合部分周溝内に黒斑のある埴輪を2個体検出した。同位置に須恵器の杯身の完形品が出土し、6世紀に近い時期の所産であることが分かった。48号は溝幅1.5m、内径12～13mの円墳と考えられ、規模が小さく他の1基と様相が異なり、黒斑のある埴輪を有することでも特異な存在である。先行調査の姉崎妙経寺遺跡の古墳群には、それら埴輪の出土はない⁽¹⁾。

砂丘中央と前浜部分では1mほどの比高差があり、砂丘中央では淡灰緑色の砂層上面が遺構検出面となっており、古墳時代の、遺構覆土は黒色砂質土層で良くしまっている。しかし黒色土が覆土となるのは、周溝住居跡では中央の凹地部分、古墳周溝でも、壁周辺部は地山とほとんど変わらない。確認調査においてトレンチ内から出土した完形品の土師器は、すべて竪穴住居跡遺構内の覆土からであった。県内の調査では内裏塚古墳群において砂丘上の遺構を調査している⁽²⁾。扇状地形砂層上の集落調査としては、富津市川島遺跡、打越遺跡がある。

（近藤 敏）

(1) 小出紳夫 「姉崎妙経寺遺跡（4次調査）」『市原市文化財センター年報10年度』（財）市原市文化財センター 2001

(2) 佐伯秀人 『内裏塚古墳群』（財）君津郡市文化財センター 1992



平成14年度 姉崎山新遺跡第3地点本調査平面図

31. 菊間遺跡群（袖ヶ台地区）

事業名 移動通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財（菊間遺跡群）調査委託（本調査）

所在地 市原市菊間字袖ヶ台3165番1の一部

調査期間 平成15年2月17日～平成15年3月17日

調査面積 240㎡（本調査）

調査概要 菊間遺跡群は市原市北部、河口部において千葉市と市原市の境界を流れる村田川に面した市原台地北端に位置する（図左上）。遺跡西側には海岸平野が広がり、先の大戦前までは条里地割りが遺存していた（図右上）。遺跡は菊間遺跡群中、南端の字袖ヶ台地区に所在している（図左下）。袖ヶ台地区は、全てが菊間八幡神社の旧境内地になっている。その境内の南東端に当調査区はある。遺跡の所在地は標高23mあり、周辺台地より2～3m高くなっているが、調査の結果盛土は認められない。東からの侵刻谷方向にむかって若干傾斜していて、立地は東南側に低地を面した台地上にある。

遺跡は、縄文時代前期末から中期初頭までの土器を含む暗褐色土包含層が、調査区中央部に残っていた。浮島式土器が中心であり、遺物も少なく、当該期の遺構は検出されていない。

弥生時代は後期の竪穴住居が5軒、土壙墓と考えられる土坑が1基あり、弥生土器が出土しているが出土量は多くない。住居跡は1軒が拡張してあるので2時期、その他それに切り合い複合した住居跡が2軒在るので、3時期以上の住居の変遷があると思われる。出土遺物は少なく、小型の甕が1点復元できたにすぎない。住居跡覆土から、多孔質火山岩製の不定形砥石が出土している。土坑墓が1基あるが覆土から若干の弥生土器が出土している。覆土と棺底の状況から木棺直葬土壙墓とした。

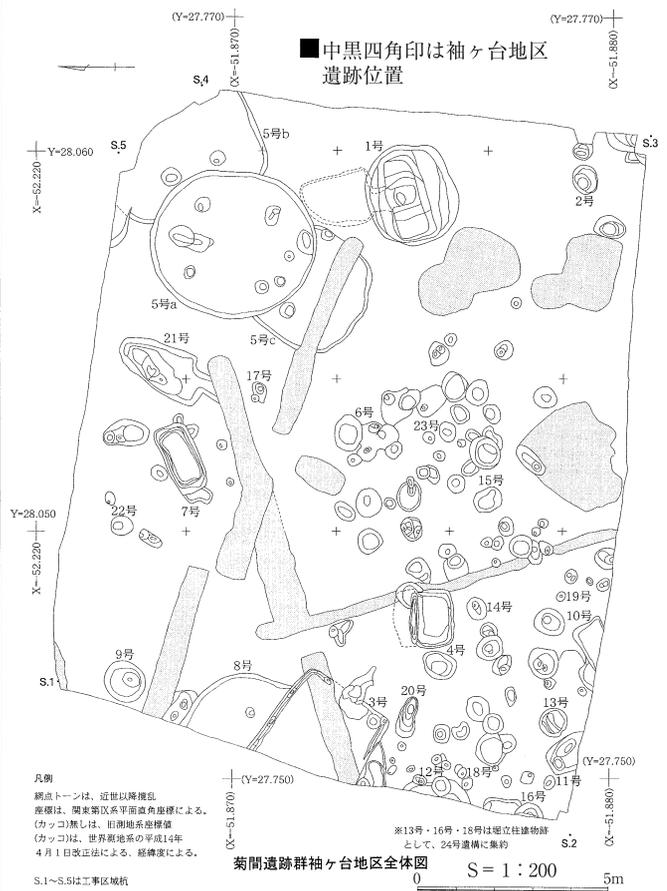
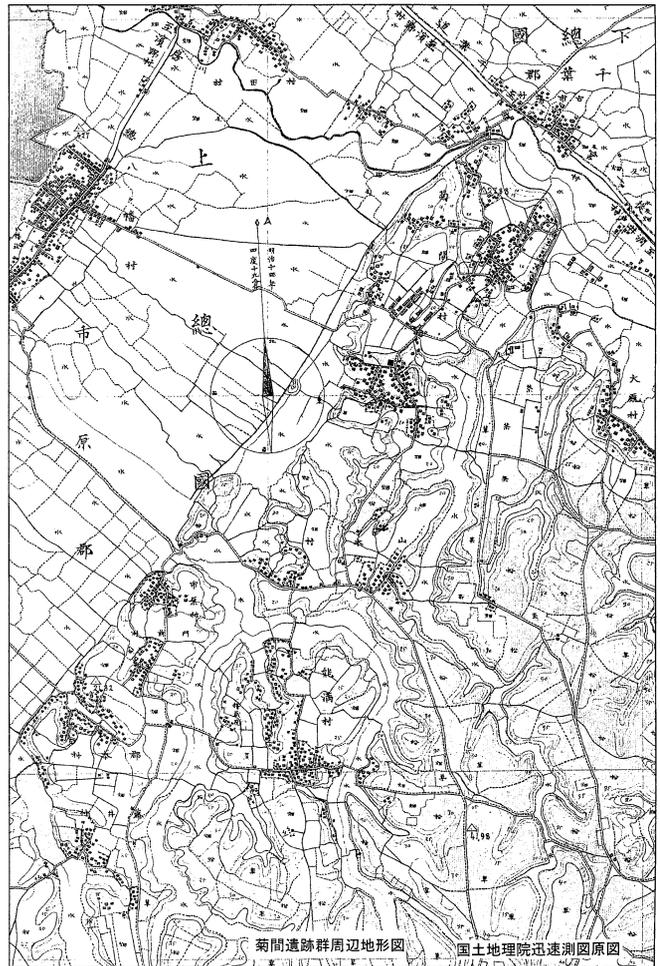
掘立柱建物跡が3棟検出されたが、1棟が全体調査されたのみで、2棟は部分調査である。1棟の規模は2間×3間を有し、その他も同規模と考えられる。調査区内では2棟は東西に並び、1棟は南北のL字形の配列が想定される。遺物は掘立柱穴からは出土せず、柱周辺に散布していた。奈良時代の須恵器の杯、甕片が多いが周辺に当該期の遺構がないため、掘立柱建物跡に伴うものと考えられる。小片であるが布目瓦も出土している。調査区北東600mに同瓦を出土する菊間廃寺が存在する。

掘立柱建物跡L字配列の折れ部分に、地下式土壙墓がある。縦坑覆土上部に、自然灰釉須恵器の長頸壺の頸部が出土している。地下壙内には副葬品等は出土しなかった。平安時代の竪穴住居は、1軒のみの検出で、東にカマドを設けている。廃絶時に土師器甕を破壊し、破片をカマド内と、床中央に遺棄している。中世以降、近世の地割り溝以外の遺構は検出されていない。菊間遺跡群ほどの調査地区も弥生時代の遺構遺物が検出され、草刈遺跡群と同様な、弥生時代中期から後期の大拠点集落の様相を呈している。

本調査終了後、整理を開始し、平成15年9月10日に末記報告書を刊行している。報告書は印刷のほかにCD-ROMを作成し、PDF高解像度版と低解像度版の各1形式に記録した。

追記 平成15年1月17日付け市文財第175号の発掘届に対し、千葉県教育委員会教育長から平成15年3月3日付けで、教文第1号の257において埋蔵文化財の発掘調査について（通知）が伝達されている。以上報告書に落記したので補記しておく。（近藤 敏）

近藤 敏 『市原市菊間遺跡群袖ヶ台地区』（財）市原市文化財センター 2003



32. 菊間遺跡群・東関山古墳

事業名 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市菊間字北野2099番2

調査期間 平成15年2月25日～平成15年3月5日

調査面積 70㎡（本調査）

調査概要 遺跡は、南側に隣接して東関山古墳が所在する、標高20m前後の台地上に位置する。周囲には、北野天神山古墳や姫宮古墳が存在し、村田川下流域を望む当台地上には数多くの古墳が存在していたと考えられる。

今回の調査では、縄文時代後期土坑2基・弥生時代後期土坑2基・古墳時代前期土坑2基・古墳時代後期土坑1基、古墳時代前期竪穴住居跡1軒・中期竪穴住居跡1軒、および古墳時代後期溝状遺構2条等が検出された。

縄文時代後期と考えられる土坑は、1において歯、2においてイボキサゴを含む貝が検出された。1については、土坑墓である可能性がある。また、弥生時代後期の土坑墓3から銅釧が4点検出された。保存状態は、比較的良好である。3点はほぼ完存しており、そのうち、1つは割れた後、補修した痕跡がある。一部は、内面に布状の繊維が付着しているようである。ちなみに、玉類は出土しなかった。遺構は、ほとんど削平された状態で検出され、床面まで2～3cm程度の残存しかなかった。銅釧は、かろうじて遺失を免れていた。方形周溝墓の主体部である可能性が考えられたが、周囲に周溝等の痕跡は確認されなかった。

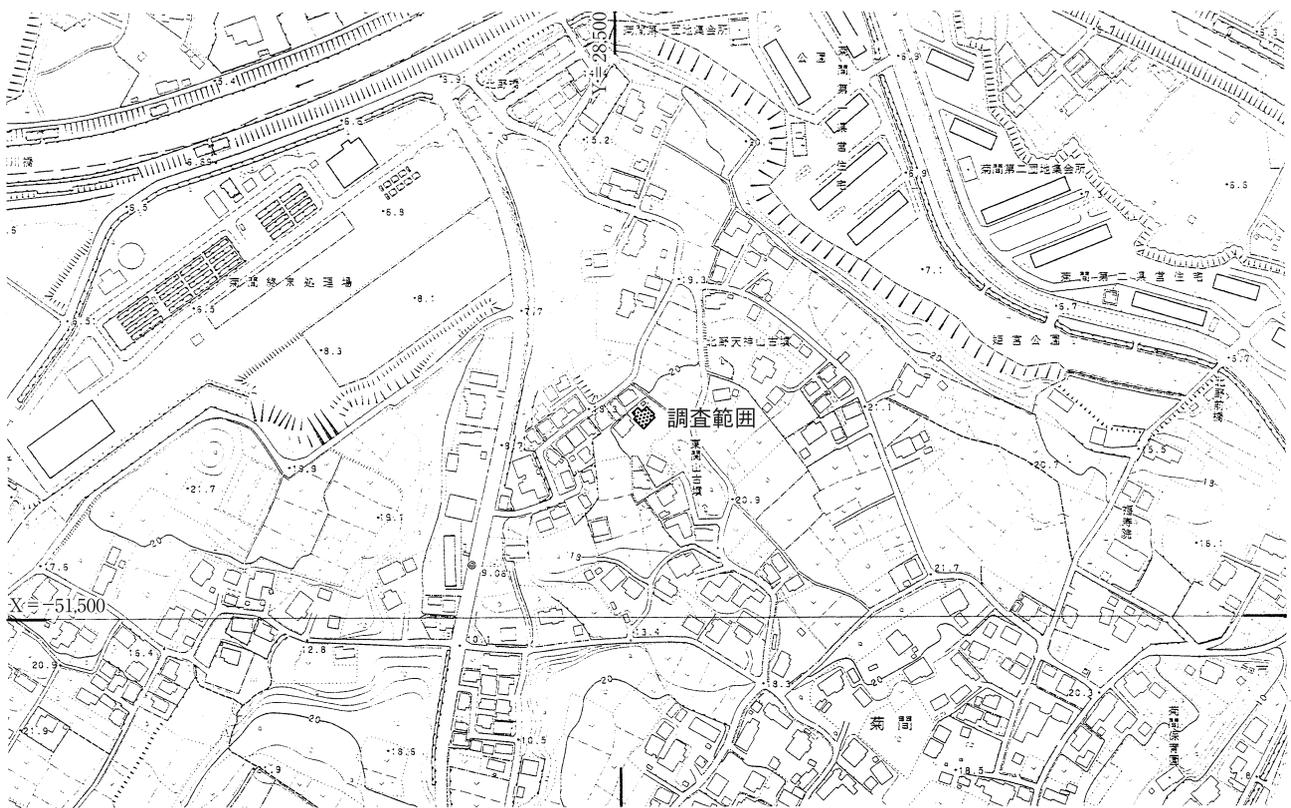
また、古墳時代後期と考えられる溝状遺構4が検出されており、東関山古墳との関連が想定されるかもしれない。

他には、古墳時代前期及び中期の竪穴住居跡が検出されたが、ほとんど削平されており、炉と壁溝の一部が残存している程度であった。

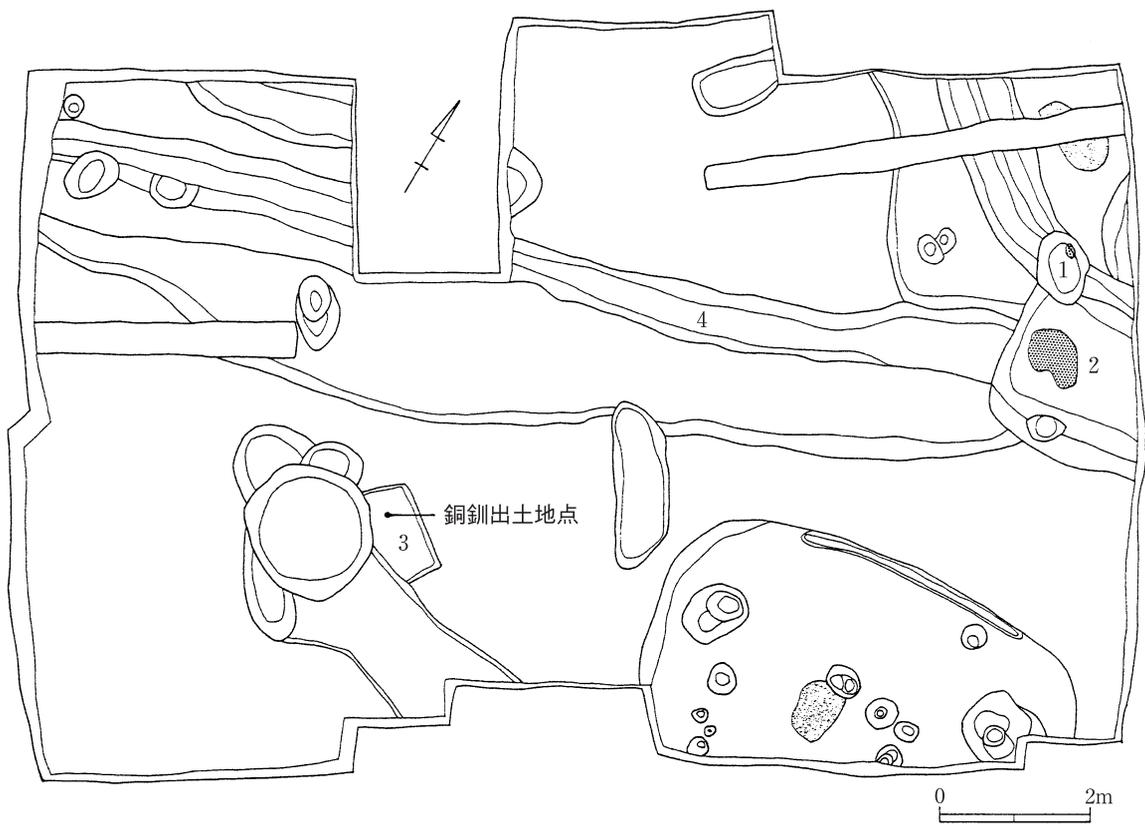
なお、平成15年度に近隣の地区において発掘調査が行われており、報告書が刊行されるので、参照されたい。

(小川浩一)

木對和紀 「東関山古墳」『平成15年度市原市内遺跡発掘調査報告』 市原市教育委員会 2004



遺跡位置図 (1/5,000)



全体図 (1/100)

Ⅳ 図書受領先一覧

名称は入力時としました。現在の組織名と異なる場合があります。

NHK・NHKプロモーション
あきる野市松海道遺跡調査会
いわき市教育委員会
えびの市教育委員会
お茶の水女子大学埋蔵文化財発掘調査団
鹿児島県立埋蔵文化財センター
グリーン大洗緑水園
さいたま市遺跡調査会
さいたま市教育委員会
さいたま市立博物館
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
財団法人いわき市教育文化事業団
財団法人大阪府文化財センター
財団法人かながわ考古学財団
財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
財団法人和歌山県文化財センター
財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
財団法人茨城県教育財団
財団法人印旛郡市文化財センター
財団法人横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
財団法人各務原市埋蔵文化財調査センター
財団法人岩手県文化振興事業団 文化財調査センター
財団法人岐阜県文化財保護センター
財団法人宮崎県埋蔵文化財センター
財団法人京都市埋蔵文化財研究所
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
財団法人釧路市埋蔵文化財調査センター
財団法人君津郡市文化財センター
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人元興寺文化財研究所
財団法人広島県埋蔵文化財調査センター
財団法人広島市文化財団（文化科学部文化財課）
財団法人香取郡市文化財センター
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
財団法人桜井市文化財協会
財団法人山形県埋蔵文化財センター
財団法人山武郡市文化財センター
財団法人滋賀県文化財保護協会
財団法人松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人仙台市歴史文化事業団・仙台市富沢遺跡保存館
財団法人千葉県史料研究財団
財団法人千葉県文化財センター
財団法人総南文化財センター
財団法人大阪市文化財協会
財団法人長岡京市埋蔵文化財センター
財団法人長野県文化振興財団 長野県埋蔵文化財センター
財団法人鳥取県教育文化財団 埋蔵文化財センター
財団法人徳島県埋蔵文化財センター
財団法人日本のあかり博物館
財団法人八尾市文化財調査研究会
財団法人浜松市文化協会
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
財団法人北海道埋蔵文化財センター
財団法人牧方市文化財研究調査会
堺市立埋蔵文化財センター
札幌市埋蔵文化財センター
調布市教育委員会
栃木県埋蔵文化財センター
長崎県教育委員会

ひたちなか市遺跡調査会
ひたちなか市教育委員会
有限会社アルケーリサーチ
愛甲原小稲葉遺跡発掘調査団
愛知県教育委員会
芦屋市教育委員会
伊都歴史資料館
伊東市教育委員会
夷隅町教育委員会
一宮市教育委員会
一宮市博物館
茨城県教育庁
茨城県大洗町教育委員会
印西市教育委員会
宇治市教育委員会
浦和市遺跡調査会
浦和市教育委員会
栄町教育委員会
横須賀市教育委員会
横須賀市自然・人文博物館
横浜市
横浜市教育委員会
横浜市歴史博物館
岡山県古代吉備文化財センター
岡山市教育委員会
岡山市埋蔵文化財センター
岡山理科大学『岡山学』研究会
岡山理科大学自然科学研究所
岡上 - 4 遺跡発掘調査団
下総町
下総町教育委員会
加計学園埋蔵文化財調査室
霞ヶ浦町郷土資料館
我孫子市教育委員会
海老名市No.88（有鹿）遺跡発掘調査団
海老名市教育委員会

各務原市教育委員会
角田市教育委員会
葛飾区遺跡調査会
葛飾区教育委員会
株式会社山川出版社
鎌ヶ谷市教育委員会
鎌倉遺跡調査会
鎌倉市教育委員会
茅ヶ崎市教育委員会
関市教育委員会
関西縄文文化研究会
館山市立博物館
岩手県教育委員会
嬉野町教育委員会
寄居町教育委員会
久が原グリーンハイツ内遺跡
久米原市教育委員会
久野下馬道上遺跡発掘調査団
久留米市教育委員会
宮崎県教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター
汲古書院
京都市文化市民局
京都府京都文化博物館
京都府立大学文学部考古学研究室
境川村教育委員会
境町教育委員会
鏡川村教育委員会
業平52地点遺跡調査会
玉川文化財研究所
玉里村教育委員会
玉里村立史料館
金沢大学文学部考古学講座
九州近世陶磁学会
九州歴史資料館
釧路市埋蔵文化財調査センター

熊本県教育委員会
君津市教育委員会
群馬県
群馬県企業局
群馬県教育委員会
群馬県立歴史博物館
群馬町教育委員会生涯学習文化財保護係
郡山市教育委員会
県営南原団地内遺跡発掘調査団
元興寺境内遺跡調査会
元興寺文化財研究所民俗文化財保存会・財団法人元興寺文化財研究会
巖原町教育委員会
古川市教育委員会
古川町教育委員会
湖西市
湖西市教育委員会
御長屋第II地点発掘調査団
向日市教育委員会
広島県教育委員会
広島大学大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室
江津市教育委員会
港区教育委員会
港区立港郷土博物館
荒木町遺跡調査団
行田市教育委員会
香川県教育委員会
高月町教育委員会
高崎市
高山歴史学研究所
高松市教育委員会
高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター
鴻巣市遺跡調査会
鴻巣市教育委員会
国際航業株式会社アドバンス事業本部文化財事業部
国土交通省中国地方整備局

国府台遺跡第29地点調査会
国分寺市遺跡調査会
国立科学博物館
国立国会図書館
国立市教育委員会
国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
佐賀県教育委員会
佐倉市教育委員会
彩の国生涯学習振興協議会
財団法人茅ヶ崎市文化振興財団
財団法人栗東市文化体育振興事業団
財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
財団法人向日市埋蔵文化財センター
財団法人広島県教育文化財団 埋蔵文化財調査室
財団法人山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター
財団法人山梨文化財研究所
財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団
財団法人住宅総合研究財団
財団法人水沢市文化振興財団 水沢市埋蔵文化財調査センター
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
財団法人石川県埋蔵文化財センター
財団法人千葉市教育財団 埋蔵文化財調査センター
財団法人総南文化財センター
財団法人鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財調査センター
財団法人東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター
財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
財団法人東総文化財センター
財団法人福島市振興公社 文化財調査室
財団法人北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室
財団法人和歌山県文化財センター
財団法人和歌山市文化体育振興事業団
堺市教育委員会
埼玉県

埼玉県立さきたま資料館
埼玉県立博物館
埼玉県立埋蔵文化財センター
埼玉県立歴史資料館
埼玉考古学会
桜井市教育委員会
桜井市立埋蔵文化財センター
札幌市教育委員会
三股町教育委員会
三好町教育委員会
三重県埋蔵文化財センター
三重大学人文学部考古学・日本史研究室
三島市教育委員会
山形県教育委員会
山口県埋蔵文化財センター
山武考古学研究所
山武町教育委員会
山本直人
山梨県立考古博物館
四ツ谷前地区遺跡調査団
四街道市教育委員会
四日市市遺跡調査会
子持村教育委員会
市原市教育委員会
市原市地方史研究連絡協議会
市原市文化財研究会
市立市川考古博物館
志村坂上遺跡N地点発掘調査団
志木市教育委員会
滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
滋賀県立安土城考古博物館
滋賀県立琵琶湖博物館
滋賀県立琵琶湖文化館
鹿児島県教育委員会
鹿児島市立ふるさと考古歴史館
鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿島町教育委員会
鹿嶋市教育委員会
芝山町教育委員会
社団法人金融財政事情研究会・新宿区南元町遺跡調査会
守山市教育委員会
守山市立埋蔵文化財センター
秋田県教育委員会
秋田県埋蔵文化財センター
秋田市教育委員会
秋田城跡調査事務所
習志野市教育委員会
十条久保遺跡調査団
出雲市文化企画部文化財室
出雲市役所芸術文化振興課文化財室
春日部市遺跡調査会
春日部市教育委員会
小川八紀
小田原市教育委員会
庄原市教育委員会
松戸市遺跡調査会
松戸市教育委員会
松本市教育委員会
沼津市歴史民俗資料館
沼南町教育委員会
沼目・坂戸（Ⅱ）遺跡発掘調査団
上行寺東やぐら群遺跡発掘調査団
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
上野遺跡発掘調査団
常名台遺跡調査会
常呂川町教育委員会
埴輪研究会
新潟県教育委員会
新潟県立歴史博物館
新潟大学人文学部
新宿区No.102遺跡調査団・東京都下水道局
新宿区No.85遺跡調査団

新宿区遺跡調査会
新宿区遺跡調査会（市谷仲之町遺跡）
新宿区遺跡調査会（住吉町遺跡）
新宿区王子不動産遺跡調査団
新宿区下戸塚遺跡調査団
新宿区喜久井町遺跡調査団
新宿区教育委員会
新宿区戸山遺跡調査団
新宿区厚生部遺跡調査会
新宿区荒木町遺跡調査団
新宿区三栄町遺跡調査団
新宿区四谷一丁目遺跡調査団
新宿区市ヶ谷加賀町一丁目遺跡調査団
新宿区市谷加賀町二丁目遺跡調査団
新宿区市谷本村町遺跡調査団
新宿区滋賀県職員寮遺跡調査団
新宿区若宮町遺跡調査団
新宿区修行寺跡調査団・株式会社エステートプロジェクト
新宿区住吉町遺跡調査団
新宿区上落合二丁目遺跡調査団
新宿区上落合二丁目西遺跡調査団
新宿区新司法書士会館遺跡調査団
新宿区正定院跡遺跡調査団
新宿区西早稲田3丁目遺跡調査会
新宿区袋町遺跡調査団
新宿区大日本印刷遺跡調査団
新宿区筑土八幡町遺跡調査団
新宿区内藤町遺跡調査団
新宿区南町遺跡調査団・兵庫県
新宿区百人町遺跡調査会
新宿区百人町三丁目遺跡調査団
新宿区百人町三丁目西遺跡調査団
新宿区福祉部遺跡調査会
新宿区補助第72号線遺跡調査会
新宿区法光寺跡調査団
新宿区落合遺跡調査団

新宿消防署改築予定地遺跡調査団
新宿法光寺跡遺跡調査団
榛原町教育委員会
深川市教育委員会
神奈川県教育委員会
神奈川大学日本常民文化研究所
水沢市教育委員会
水沢市文化振興財団 水沢市埋蔵文化財調査センター
世田谷区教育委員会
世田谷区立郷土資料館
成瀬第二地区遺跡調査会・都市基盤整備公団
成田市
成田市教育委員会
盛岡市教育委員会
青山学院大学文学部史学研究室
青森県教育委員会
青森県埋蔵文化財調査センター
青森市教育委員会
青谷町教育委員会
静岡県
静岡大学人文学部考古学研究室
石岡市教育委員会
石原田北遺跡発掘調査団
石川県教育委員会
仙台市教育委員会
仙台市歴史文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
千歳市教育委員会
千歳村教育委員会
千葉県
千葉県史料研究財団
千葉県教育庁生涯学習部文化課
千葉県文化財法人連絡協議会
千葉県立安房博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立中央博物館

千葉県立房総風土記の丘
千葉市教育委員会
千葉市立加曾利貝塚博物館
千葉大学文学部考古学研究室
川本町教育委員会
泉佐野市教育委員会
泉南市教育委員会
船橋市遺跡調査会
船橋市教育委員会
船橋市郷土資料館
前原市教育委員会
全国埋蔵文化財法人連絡協議会
倉見才戸遺跡発掘調査団
倉敷埋蔵文化財センター
早稲田大学
早稲田大学本庄考古資料館
相原地区遺跡調査団・相模原市相原4丁目土地区画整理組合
総社市教育委員会
足立区遺跡調査会
足立区立郷土博物館
袖ヶ浦市教育委員会
袖ヶ浦市郷土博物館
袋井市教育委員会
台東区文化財調査会
大栄町教育委員会
大貫台地理埋蔵文化財発掘調査会
大宮市遺跡調査会
大宮市教育委員会
大宮市立博物館
大阪市立博物館
大阪大学大学院文学研究科考古学研究室
大阪大学埋蔵文化財調査委員会
大阪府教育委員会
大阪府立近つ飛鳥博物館
大山町教育委員会
大谷下浜田遺跡発掘調査団

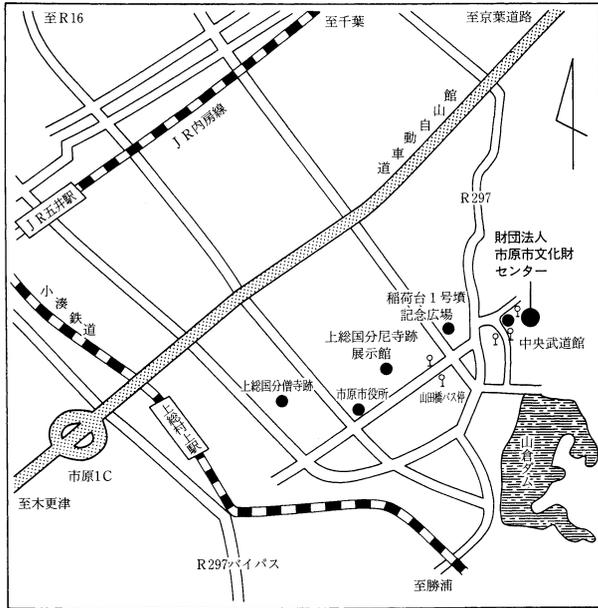
大津市教育委員会
大田区教育委員会
大田区立郷土博物館
大島町教育委員会
大分県教育委員会
大分県教育庁文化課
大分市歴史資料館
大和市教育委員会
地域相研究会
智頭町教育委員会
筑波大学歴史・人類学系 先史学・考古学コース
中町教育委員会
朝日新聞社
町田市教育委員会
調布市遺跡調査会
調布市教育委員会
調布市郷土博物館
銚子市教育委員会
長岡京市教育委員会
長崎県教育委員会
長谷曾野遺跡調査団
長南町教育委員会
長野県埋蔵文化財センター
長野県立歴史館
長野原町教育委員会
鳥取県埋蔵文化財センター
鳥取市教育委員会
津久井町教育委員会
津山郷土博物館
津市教育委員会
津市埋蔵文化財センター
天瀬町教育委員会
田中信
田名塩田遺跡群発掘調査団
都市計画道路小田原早川線改良工事遺跡発掘調査団
都立学校遺跡調査会

土浦市遺跡調査会
土浦市教育委員会
土浦市立博物館
土浦城遺跡調査会
土佐山田町教育委員会
土筆舎
島根県教育委員会
島根大学法文学部考古学研究室
島根大学埋蔵文化財調査研究センター
島田市
東海大学校地内遺跡調査委員会
東海大学校地内遺跡調査団
東京オペラシティ建設用地内埋蔵文化財調査団・東京オペラシティ建設・運営協議会
東京学芸大学考古学研究室
東京消防庁・新宿区四谷三丁目遺跡調査団
東京生命保険相互会社・新宿区市谷仲之町遺跡調査団
東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会
東京都住宅供給公社・新宿区市谷薬王寺町遺跡調査団
東京都新宿区愛住町遺跡調査団
東京都南町遺跡調査団
東京都南部住宅建設事務所
東京都北区教育委員会
東京都北区飛鳥山博物館
東京都立大学人文学部考古学研究室
東京都立大学人類誌調査グループ
東金市教育委員会
東金市小野山田土地区画整理組合
東広島市教育委員会
東大阪市教育委員会
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会
藤岡市教育委員会
藤枝市教育委員会・静岡大学考古学研究室
藤沢市教育委員会
徳島県教育委員会
徳島文理大学文学部文化財学科

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・飛鳥資料館
栃木県教育委員会
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
栃木県立なす風土記の丘資料館
奈良県立橿原考古学研究所
奈良市教育委員会
奈良大学文学部考古学研究室
縄文時代文化研究会
南国市教育委員会
南山大学人類学博物館
日田市教育委員会
日本大学史学会
日本鉄道建設公団東京支社・港区遺跡調査事務局・港区教育委員会事務局
日本電信電話株式会社
日本文化財科学会
日野市遺跡調査会
日野新町一丁目住宅遺跡調査会
日立市教育委員会
蕨崎市教育委員会
能勢町教育委員会
能登川町教育委員会・能登川町埋蔵文化財センター
柏市遺跡調査会
柏市教育委員会
白井町教育委員会
八王子市館町調査団
八王子市教育委員会
八王子市中野甲の原遺跡発掘調査団
八千代市遺跡調査会
八千代市教育委員会
八千代市立郷土博物館
八千代町教育委員会
八田村教育委員会
鳩山町教育委員会
板橋区教育委員会

板橋区四葉地区遺跡調査会
飯能市遺跡調査会
飯野町教育委員会
浜松市教育委員会
浜松市博物館
浜田市教育委員会
富岡直人
富士見市教育委員会
富士見村遺跡調査会
富士見村教育委員会
富津市教育委員会
布津町教育委員会
府中市教育委員会
武蔵大学人文学会
福岡県教育委員会
福島県
福島市
福島市教育委員会
文化庁
文京区遺跡調査会
文京区教育委員会
平取町教育委員会
平城京左京四条三坊十一坪発掘調査会
放射第6号線遺跡調査団
豊橋市教育委員会・美術博物館文化財係
豊田市教育委員会
北海道立埋蔵文化財センター
北区教育委員会
北上市教育委員会
北上市立埋蔵文化財センター
北条町教育委員会
本庄市
本庄市遺跡調査会
本庄市教育委員会
埋蔵文化財行政研究会

妙見山麓遺跡調査会
妙正寺川No.1 遺跡調査会
名古屋市博物館
名古屋大学文学部
明治大学考古学博物館友の会
明治大学博物館事務室
明野村教育委員会
茂木町教育委員会
木更津市教育委員会
木田余土地区画整理組合
夜須町教育委員会
野田市教育委員会
有限会社多摩総合文化財研究所
雄山閣出版株式会社
窯業史博物館
落合公園遺跡調査会
落川・一の宮遺跡（日野3・2・7号線）調査会
立教大学学校・社会教育講座
立川市下大和田遺跡調査団
立川市教育委員会
流山市教育委員会
鈴鹿市教育委員会
練馬区教育委員会
六甲山麓遺跡調査会
六本木六丁目地区市街地再開発組合・港区遺跡調査事務局・港区教育委員会事務局
和歌山市教育委員会
和歌山市立博物館
和洋女子大学考古学研究室
和洋女子大学文化資料館
佛教大学校地（文化財等）調査委員会
國學院大學考古学資料館
國學院大學文学部考古学研究室
鄧聰



〔交通案内〕

- JR 東日本内房線五井駅下車
五井駅東口より中央武道館行バスあり
終点 文化財センター下車徒歩2分
- JR 東日本内房線八幡宿駅下車
八幡宿駅西口より市原市役所経由国分寺台行
又は千葉県こどもの国行 山田橋下車
徒歩5分 市原中学校入り口に入る
- 館山自動車道市原ICを降り
市原市役所方向へ車で15分

市原市文化財センター年報

(平成13・14年度)

平成16年3月30日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地
TEL 0436(41)7300
FAX 0436(42)0133
e-mail ihbc@hkg.odn.ne.jp

印刷 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6
TEL 043(233)2236
